

『うれしい悲鳴』

上演台本 作・演出：広田淳一
2012. 1. 1-2013. 10. 20

登場人物／出演

マキノ久太郎……「泳ぐ魚」のメンバー。痛覚がない。

斉木ミミ……斉木家の一人娘。「なんでも過敏症」という強度のアレルギー疾患を患っている。

母……斉木ミミの母。

父……斉木ミミの父。

栄太郎……斉木ミミの弟。

新美……栄太郎の随行者。

亜梨沙……斉木ミミの小学校時代からの友人。

高山……亜梨沙がかつて働いていた飲食店のバイト仲間。

モモ……高山の恋人

司会……欠席結婚式の司会者。

司会補佐……その補佐。

エリ……ミミと亜梨沙の友人。

かりん……ミミと亜梨沙の友人。

黒川……「泳ぐ魚」の構成メンバー。将来を囑望されている部隊内の中堅エリート。

尾関……「泳ぐ魚」の構成メンバー。既婚者。

丸山……「泳ぐ魚」の構成メンバー。最年少。

菅野……「泳ぐ魚」の構成メンバー。チームのムードメーカー的存在。

宮下……「泳ぐ魚」の構成メンバー。寡黙な男。

大杉……「泳ぐ魚」の構成メンバー。部長。

森近……「泳ぐ魚」の構成メンバー。幹部の一人。

側近……「泳ぐ魚」の構成メンバー。森近の側近。

1章 欠席結婚式

1場 時代背景

◎時代背景

天井から袋に入った戯曲が落ちてくる。それを拾いあげる俳優たち。各々が戯曲を持ち、リーディングが始まる。

司会 「うれしい悲鳴」。

司会、会釈をする。皆もそれを返す。

客席にも一礼。

司会 舞台は近未来の日本！ そう、この国のお話です。だけど「この日本」は、みなさんの住んでいる「その日本」とはちょっと違います。

補佐 全然、全く違います。

司会 大きな変化は、一人の強烈なリーダーによってもたらされました。

独裁者 まあ僕のような人間は一種の独裁者ですからね。

マシコ この国の人たちはリーダーになるのが本当に嫌いでした。

補佐 好きなのは、たらい回しと無責任。最後に物事を決定するのは、人間では無くて空気！ マシコ それがこの国のやり方です。

山森 何度か強烈なリーダーシップをもった人物が現れては叩き潰され、

補佐 春・夏・秋・冬。やがて、年平均で4人ぐらいは首相が交代するような、そういう、大変季節感豊かな政権が続くようになりました。

雄真 そんな折、この国にも再び強烈なリーダーが現れたんです。

独裁者 まあ僕のような人間は一種の独裁者ですからね。

司会 独裁者が「自称・独裁者」になったことで国民は油断したんです。だって「自称・天才」とか「自称・悪人」とかって、大した天才でもなければ大した悪人でもないじゃないですか？

補佐 それが大間違いでした。自称・独裁者は首相の座につくや真っ先に憲法改正に着手！ そうですね、強烈な反対運動に遭って、その都度議会を解散して民意を問うて、ついでに、ついでに、ついでに強引なやり方で、自分の党の議席数をどんどん増やしていったんです。

歓声・拍手。

百花 年明けの通常国会における所信表明演説は、歴史に残る重大なスピーチとなりました。

独裁者 現憲法は、成立過程に重大な瑕疵かしがありそもそもその成立に疑義がある。よってこの、現憲法の無効を宣言し、新たな憲法を發布する。

司会 その上で、まず彼が行ったのが首相公選制の導入、つまり、総理大臣を国民による選挙で選ぶんですよ！とこの改革でした。けれども……、

独裁者 ま、やるべきことはもう十分やりましたんでね、あとのことはあとの人達でやったらいいじゃないですか？

百花 人気絶頂の最中において彼は突如、引退を表明したんです。

司会 引退の翌々日、彼は暗殺されました。

銃声。そして、大騒ぎ。

日比野 完璧でした……。かつて日本人の空気をこれほど見事に読んだ政治家がいたでしょうか？

中村 竜馬だっ！ 彼こそは間違いなく、平成の坂本竜馬だったんだ！

庵寿 暗殺されたことになって、彼の存在は、伝説になりました。

雄真 美化しすぎるのは良くない！ 今こそ、冷静に彼の業績を判断する機会だ！

司会 こんな意見はダメです。空気が読めていません。

補佐 ダラダラ生き永らえたおっさんおばさんが、ぶくぶく太りながら英雄の批判なんかしても説得力がありません。

司会 彼の後継者は弔い合戦と称して初の首相公選選挙に出馬し、圧倒的な得票率で当選を飾りました。

歓声。

マシロ 後継者は手始めに憲法9条の改正と自衛隊の国軍化、さらにエネルギー政策の大転換と銘打って原子力発電からの完全撤退と核武装を同時に宣言しました。

百花 この決定までにかかった時間はわずかに十日。

日比野 公選首相の一期目の任期が尽きるころ、まさに独裁的に進められた改革に多くの国民は震え上がりました。

細谷 あまりに急激なこの改革の時代を指して「狂った時代」と言う人もいます。けれど一部の国民は決して「狂っている」とは思わなかったんです。やり方はどうあれ、この国は変わらなければもう持たない、そう考えていたんです。

マシロ 後継者は何度が政権を失いながらも高い支持率を維持し続け、合計7回に渡って組閣するにじつになりました。

司会 75歳の誕生日を迎えるその49日前、彼は死にました。

後継者 かつて私は、75歳以上の老人は死ぬ、ということを経験して申し上げました。もちろん、老人を皆殺しにするような社会がよい社会だとは私も思いません。ですが、……毎日毎日、働き詰めの若者がいつまでたってもボロアパートの家賃に追い立てられて牛丼を体内に流し込み、その一方で、毎日毎日老人たちが高額の点滴を体内に流し込む。これが社会の、正常な姿でしょうか？ 私は異常だと断じました。さっ……。

問。

後継者 「まず魂よりの始めよ」ということを私は私の政治家人生の中で実践して参りました。そして49日後に私は75歳の誕生日を迎えます。まあ、よく生きました。大体、こんなところでしょう……。それではみなさん、このあとさんざん流されるであろう私の追悼特別番組で、お会いしましょう。

後継者が死ぬ。

司会 有限実行。それがあの後継者が持っていた何よりの美德で、他の政治家たちとは全く違う点でした。賛否両論、毀誉褒貶はもちろんありますが、彼は今でも大抵の人にこう呼ばれています。

多数 「最後の政治家」

マシロ このあと始まった日本人によるまったく新しい政治手法は世界各国から大変奇妙なものとして驚きをもって迎えられました。

雄真 実に日本人らしい。

百花 そんな評価もありました。自分で考え自分で判断するのではなく、空気を読んで空気に決断させる、とてもオリジナルなシステムです。

補佐 それが現在、この国において、国権における唯一にして最高の議決機関と呼ばれる国民大会議「カミカゼ」と呼ばれる組織です。

黒川 この組織では、「多数決」に変わる政治手法として「アンカ」と呼ばれるくじ引きまがいのデータラメなシステムが採用されました。それによって次々に思いつきみたいなデータラメな政策が生み出され、実行されることになっていったのです。

司会 たとえば……。

雄真 「ちゃんまげの日は全国民がちゃんまげをつけて過じさなければいけません」

司会 とか、

高山2 「80歳以上の老人の私有財産は全部没収」

司会 とか、

高山5 「12月24日には上半身裸で外に出て、小一時間ばかり炎の正拳突きをしなければいけません」

司会 とか、

百花 「日本国民たるもの年に一度は三泊以上の国内旅行をしなければいけません」

司会 とか。

大原 すべての有権者についていった思いつきの法令を提出する権限が与えられていて、「カミカゼ」と呼ばれる特別委員会がそれを集めることになっていました。委員会は一切の審査を行わず「厳正なる抽選」によってそのデータラメの中から一つの政策、「アンカ」を決定する。

黒川 そのシステムを実行するための実力部隊として、「泳ぐ魚」は結成された。「アンカは絶対」というシンプルな行動原理の下に彼らは行動し、時に暴力を使用してもアンカを実行するその手法は、結果として多くの国民の命を奪つたことになっていった……。

と、突然、電話の着信音が鳴り響く。

朗読をしていた人々が退場し、高山、亜梨沙が舞台上に残る。

以下、リーディング形式ではない。

◎亜梨沙からの質問 その一

遠くで電話の呼び出し音がして一人の女(亜梨沙)がそれに出る。

亜梨沙 あ、もしもっ？ 高山へん？

男 はい？ あ、もしもっ？

舞台上、亜梨沙とは別の場所から一人の男(高山)が登場し、電話に出る。

亜梨沙 あたしあたし、亜梨沙です。てわかるかな？

高山 亜梨沙、さん？ とうとうあの、の、の……。

亜梨沙 ほらバイトの、「チューヤン」で一緒だったキッチンのさ、フライヤー全部教えてあげたじゃん？

高山 ……あーあーあーっ！ 亜梨沙さんか！ あー！

亜梨沙 ありえないんだけど、何ちよっと「誰？」みたくなってんの？

高山 や、すみません久しぶりだったから……。うーわ、マジ久しぶりじゃないですか、亜梨沙さん元気にしてたんすか？

亜梨沙 元気元気。てか、高山くん今、電話大丈夫？

高山 はい、まあ大丈夫ですけど……。

亜梨沙 や、あの、久しぶりでなんなんだけども、今日ちよっと高山くんに相談があって電話したんだけどあのね、なんかあたしの友達で小学校ん時からの幼馴染みたいな、すっごい仲良かった子がいるんだけどね、

高山 はい。

亜梨沙 その友達が今ちよっと、なんていうの？ 「命に関わる大問題」みたいなのが発生しちゃった、

高山 「命に関わる大問題」？

亜梨沙 えーとなんだ「泳ぐ魚」ってあんじゃん？ あの、軍隊みたいなさ、

高山 はいはい、「泳ぐ魚」ありますね。

亜梨沙 あの人のやつっているなに？ 政策っていうかアンカ？ にその友達が巻き込まれそうになっちゃった、

高山 ああ……。

亜梨沙 それでなんかよくわかんないんだけど、最悪殺されちゃうかもしくない、みたいないことになってるんだって言うのね、

高山 殺されるって……、そんなアンカ最近ありましたっけ？

亜梨沙 や、わかんないんだけどね、あたしも。なんかそういう内容なんだって聞いて、

高山 ぶっついつアンカなんすか？

亜梨沙 や、まあ、内容は話すし長くはなっちゃったからアッしなだけじゃ、殺さわるっていつかまあ、その子が自分でそうなるようにしちゃってるみたいなのがあるっていつか、うーん、

高山 自分で、ですか……？

亜梨沙 とにかくホラ、高山へんて結構いい大学行ってたじゃん？ と思って、そういう「泳ぐ魚」とかに顔が利くっていつかさ、知り合いみたいなのとかいないのかなあー、とか思ったんだ

はじ……。

高山 はい。……え？

亜梨沙 あれでしょだって、「泳ぐ魚」って結構その、エリート集団でいつかさ、そういうなか「悪い人たちだけど頭はいいよ」「みたいな人たちっていつか、そうなんだよね？

高山 そうですかね、ある意味、

亜梨沙 だから、あたしの知り合いとかは全然バカばかりだから、そういうのと同じな

るか居なかったんだけど高山くんなら、と思っ

高山 ああ……。

亜梨沙 だから、ああいうのに何？ 対抗する、ってほどのことじゃないのかもしれないだけ

ど、なんか、……どうしたらいいかわかんなくなっちゃってあだし

高山 やー、でも知り合いなんかいないっすけどね、俺も。あー、それこそあの宮下さんって

たじゃないですか？ ホールですって3階仕切ってた？

亜梨沙 いたいた。あの「笑わないベテラン」でしょ？

高山 そつですそつです。あの人が、なんか大学院のあとで何年か働いて、そんで「泳ぐ魚」

に入ったって話聞きましたけどね、

亜梨沙 マジで？ えー、あんなんが入れるの？

高山 ゆーてもかなりエリートですよ、宮下さんは。

亜梨沙 そっかそっか。え、高山くん連絡取ってたりすんの？

高山 や、取ってないです。ていうか俺そんな宮下さんと仲良かったわけでもないですし、っ

え？ そのお友達ってのは、なんで殺されそうになっちゃってるんですか？

亜梨沙 うーん、お母さんの身代わり、っつうか、んー、その子が「身代わりになる」みたい

ないっつう言ってるからっつうのもあるんだけど……。

高山 身代わりっ？

亜梨沙 なんか、アンカをひっくり返すっつうかさ、そういう方法ってないのかな？ 「泳ぐ

魚」の好きにはさせない！ みたいなの？ 悔しいんだよね、このままアンカに巻き込まれて友達が

死んでっちゃうなとてのはねー

高山 まあでも……アンカをひっくり返すっつうか、相手、困になっちゃいますかかからむ。む。

亜梨沙 だよねー。いやー……。

少しの間。

高山 いやあ、わかったけどあの、そしたら俺の方でもなにか、じいあんが叫ぶとこでし

つひつひつ動いてい

亜梨沙 ホントに？

高山 はい。総次郎とかにもいろいろ聞いてみたり、

亜梨沙 あー、総次郎か。てか、居たね、総次郎。

高山 居ましたよ。こないだも二人で岩盤浴行って、

亜梨沙 岩盤浴？ に、なに、わざわざ行ったの？ 男二人で？ 岩盤浴？

高山 いいじゃないですか別に行っちゃって笑

亜梨沙 や、いんだけど、なんで岩盤浴、と思って、

高山 いや、近くの店がブランド・リニューアル・オープンだとかっていうから、あの、なんか

へア割とかもあるっていうんで、安いし、言ってみっかって話になって、

亜梨沙 ごめんその話は別にいいや。

高山 自分が聞いたんですよ。

亜梨沙 ごめんごめん。でも総次郎ならなんか知ってるかな？

高山 んー、聞いてみます。

亜梨沙 うん。

少しの間。

高山 なんか、亜梨沙さんも、よくわかんないですけど元氣出して下さいよ。なんも出来ないで
すけび、はい、俺に出来ることは一応、やってみますよ。

亜梨沙 うん、ありがとう。あー、良かった。高山くん電話して。

高山 なんかわかったらまた連絡しますよ。

亜梨沙 うん、じゃあ待ってる。ホントありがとうね。

高山 うえええ……。そっじゃまた。

電話を切る高山。

亜梨沙、退場。

◎高山、モモ

場面、高山の部屋となる。

高山の恋人らしき女（モモ）がいつからか登場している。

モモ 誰？ 元カノ？

高山 違う違う。え、なんでそうなの？

モモ なんかいろいろ楽しそうだったから。

高山 べーが？ 全然そんなことないけど。

モモ じゃあ何の用だったの？ てか誰？ われわれ電話とかしてー。

高山 いや、かかってきたんだよね別に。

高山₂ だけれどもは、好きとか嫌いとか以前に、なんついたらいいの、ただ、ただ距離があつて、……遠い。

高山₃ 遠い。

高山 遠い。

場面転換。

◎欠席結婚式 その1

舞台上、マキノが一人、立っている。

以下、マキノはインタビュアーに答えるような、見えない誰かに話しかけるような様子で話す。

マキノ ……個人的な話で恐縮なんですが、僕には痛覚というものがありません。「痛いー」とかっという感覚。よく「人の痛みがわからない人だね」なんて言い回しがありますが、確かに僕にはそういうことが全然、わからないんだと思います。もちろん僕の皮膚だって切れば血も出ますし、アザも出来れば、骨も折れます。ただ「痛いー」っという感覚が無いんです。自分ではこれが当たり前だと思って生きて来ましたし、ま、しょうがないかな、とは思っているんですけど、時々、やっぱりそういうものが無いから僕は、いつまで経っても一人前になりきれないと言っか、人として、何か欠けてしまっている部分があるのかもしれないって、そう思ったりするんですよ。

マキノの発話中、別の場所に一人の男（黒川）が登場しており、観客に向かって話し始める。

黒川 マキノ久太郎、身長174センチ、体重62キロ、筋肉質のやせ型で体脂肪率は11・8%、し座のO型、裸眼視力は右1・0、左0・9、右肩を少し下げて歩く癖があり、左手手腕部に8センチほどの大怪我の跡、本日、結婚式を挙げるのはこの男です。

さらに別の場所から司会、司会補佐、登場し、観客に向かって話し始める。

司会 お相手はこちら、ご紹介いたしますよう、新婦の「斉木ミミ」さんです。

紹介を受けて「斉木ミミ」なる女が登場。

続いて結婚式の参列者たちがザワザワと登場し、結婚式の場が形成される。

司会進行役の二人があらたまった様子で挨拶を始める。

司会 えー、本日はあの、マキノ久太郎さんと斉木ミミちゃんの結婚式ならびに結婚披露宴をですわ、ご親族の皆様方ご列席のもと、私も友人知人代表の者でささやかながら執り行っ、…形で？ 行こうかなあ、なんてことになっておりまして、ハイ。ま、でも結婚式といいますがちょっと普通じゃないといいますが、いわゆる「ザ・結婚式」ってものとは若干違ってへるかなとは思っているんですけど…

補佐 何が普通じゃないかと申しますとですね、いないんです。新郎新婦。

司会 両方とも。

少しの間。

司会 ……ねえ？ ちょっと変わった感じでしょ？ ですからこの二人は代理なんです。

マキノ 代理ですー！

〽〽〽 代理ですー！

補佐 今から私たちが行おうとしているこれは、言うなれば「新郎新婦なき結婚式」とでも申しましようか、「欠席裁判」ならぬ「欠席結婚式」とでも申しましようか、とにかく、そんなものになるわけじゃない。

司会 そこで本日お集まりの皆様にもですね、出来れば、と申しますか、もしよろしければ、ななですけび、「一緒に？」 お祝いとかしてもらっちゃったりなんか出来ないかなあ、なんて考えたりまして、ハイ。

と、突然、式の参加者の中から一人の男（森近）が歩み出て発言する。

父 私たちは二人の関係者です。友人だったり親戚だったり「袖触れ合っても他生の縁」だったり、関係性の「濃い」「薄い」はソレゾレ違ってますが、ともあれ、私たちは一人の関係者で、これは、そういった関係者たちが集まって執り行う、新郎新婦なき……。

司会 ハイッー！

一同 「欠席結婚式」！

司会 ことになったんですね。

補佐 でもまあ、みなさんにとっては「そんなもん知ったこっちゃねーよ」とゆーか、

司会 全くの他人事（うらやま）、

補佐 とゆーか、

司会 いい迷惑、

補佐 とゆーか、そういった感想をお持ちかもしれません。

司会 ですけども、びっぴで暖かく、そして時に冷たく、結婚を迎える一人の若者を見守ってやっついでいいね。

補佐 二人の若者……。

司会 てのはもちろん新郎新婦、

〽〽〽 (マキノを見て) マキノ久太郎と、

マキノ (〽〽〽を見て) 齊木〽〽〽ー！

補佐 マキノ久太郎と齊木〽〽〽。

母 びびっぴりお似合いのね。

亜梨沙 ベストカップルのね。

菅野 ナイスコンビネーションのね。

かりん びびっぴのね。

モモ 「コンビのね。

亜梨沙 トリオのね。
宮下 むしろカルテットのね。
丸山 ダブルデートのね。
新美 デュエットのね。
司会 パートナーのね、
大杉 二人のね、
亜梨沙 お話。

俳優たちがガヤガヤと動き始める。

菅野 でも本人がいねーんだから結婚式ってよりはお葬式なんじゃねーの？
かりん 死んでいない人のお葬式をやるしないでしょ。
菅野 でも本人がいねーとここで結婚式もやんねんじゃねーの？
栄太郎 じゃあれだ、フィルムコンサートみたいなの、フィルム・ウエディング？
菅野 や、フィルムじゃねーんじゃねーの？
父 てかあんの？ そんな言葉。
菅野 無いんじゃねーの？

※少し離れたところに黒川。

黒川は下前。黒川は動かず、他の面々が次々黒川の傍に来る。

黒川 言葉がないなら作ればいいだろ。
丸山 作るうったって材料がない。
黒川 材料がないなら買えばいい。
新美 買おうたって金がない。
黒川 金がないなら働きゃいい。
森近 働こうにも職がない。
黒川 職がないなら盗めばいい。
宮下 いやいや、そんな度胸はない。
黒川 度胸がないなら、
亜梨沙 マキノとウiiiiiii！

栄太郎 で、一体どういう二人なんだいそりゃ？
補佐 美女と野獣って聞いたけど。
菅野 ジョンとヨーコみたいになって聞いたけど。
尾関 愛と誠みたいになって聞いたけど。
マシコ ジェルソミーナとザンパノみたいな。
栄太郎 シドアンドナンシーみたいな。

森近 たっちゃんともなみ、みたいな。

菅野 俺とあいつとあいつと俺と、ゴンとキルアとグリとグラ、ルドルフとイッパイアッテナ、みたいな。

亜梨沙 マキノとミミ！

大杉 レノン・マッカーサー、みたいな。

司会 パートナーのね、

大杉 二人のね、

亜梨沙 お話。

結婚式の参加者が退場して行く。
場面転換。

◎アンカで死刑 その1

舞台上には、黒川が座っている。彼は縛られているなどして身体の自由を奪われており、その傍らには彼を縛ったと思われる男が二人立っている。それはミミの弟、栄太郎とその相棒、新美である。

何らかの拷問が行われているような様子だ。

栄太郎は手にした携帯端末でインターネットの掲示板サイトを閲覧しており、そこで以下の文面を書き込む。

栄太郎 「『泳ぐ魚』のメンバー生け捕りにしたった。今から死刑にするから殺し方を「アンカ」で決める。使う道具は電動ドリル、ワロス。最初は20番！ 身体のごの部位にドリルをぶち込むか書いてってくれ。オマイラ強烈な奴頼むぜ「ワロスワロス」と……よし。ホラ、「コレお前見て。」

新美 あ、はい。見えます。

栄太郎、携帯端末を新美に渡す。そして代わりにビデオカメラを手にする。
以下、栄太郎はそのカメラで延々と撮影を続ける。

栄太郎 ……そんなじゃあ始めようか、黒川さん。

黒川、咳をする。

栄太郎 俺、前から死刑制度ってやつには疑問があっさ……。だって、たとえば自分の親友を殺された、とか、自分の妻を殺された、とか、自分の家族を、自分の姉ちゃんを殺された、とか
（この場合はね……。）

黒川 はい。

栄太郎 死刑なんでもんじゃ納得できないと思うんだな。やっぱりどうしても、この手で犯人をぶちのめしてやりたい、って思うだろ？ 死ぬほど憎たらしいヤツ捕まえたんだったら、俺にも一発殴らせろ、って思うだろ？

黒川 はい。そう思います。

と、新美がインターネットに書き込まれたコメントを読み上げる。

新美 20番「膝のお皿」……です。

栄太郎 把握した。膝のお皿か……。しょっぱな飾るにはちよつどいいチョイスだな。よし、やっちゃって。

新美 あい！

新美、電動ドリルの電源を入れ、黒川の「膝の皿」にドリルをあてがい、貫通させる。

黒川、悲鳴を上げる。

場面転換。

2章 ふれあい

1場 突破

◎「泳ぐ魚」 その1

場面、「泳ぐ魚」の談話室での風景となる。

「泳ぐ魚」の面々（マキノ、黒川、菅野、尾関、大杉、丸山）が登場。

尾関 お前それは何、好きな人が出来たってこと？

マキノ はい、まあ……。

菅野 えー誰々？ どんな人？

黒川 どのお店？

マキノ や、お店とかじゃなくて別に、一般人というか、素人というか……。

菅野 おー、すげえすげえ、どこで捕まえたんだよ？

尾関 お前、風俗以外で女と触れ合うことなんかあんのかよ？

マキノ いや、無いとすけじ……。

黒川 え、何やってる人なの。

マキノ 何やってる？ どの店……うーんと、病気……ですかね。

尾関 なんだ？

菅野 それ答えになってんのか？

尾関 何、もうしきめってるの？ つか、つか、つか、あれなの？

マキノ いや、まだそんな、つか、つか、つか、つか……なんですかね？

丸山 えー？

尾関 難しいこと聞かれたな。

黒川 だからまあ、好きです、つか、つかは伝えたの？

菅野 それかやっちゃってるかだよな。

尾関 どうなんだよ？

マキノ いや、好きです、つか、つか、つか、つか……。

黒川 言わなそうだよなお前。

尾関 気持ち悪いっすよ、言ったら。うわ。想像しちゃった。

菅野 言っついでた方がいっすよ、そういっついでよ。

マキノ そうすかね？ でもタイミングがわかんなくて、

菅野 いろいろなんタイミングなして、会っついきなり言っただよ「じゃんちは。好きですっー」

マキノ それ頭おかしくなっつすかかか？

菅野 言わねーよりりマシだよ。

マキノ あー、あの、あのもななっつつか、セックスはしてないんですけど、でもあのオ……

尾関 なんだよ？

マキノ あの、イク、イクーってこのあの、

尾関 え？

マキノ イカせました。

少しの間。

菅野 誰が？

マキノ いや、俺が。

黒川 その女を？

マキノ はい。

びわめへ回僚たち。

菅野 ええ？ すぎえじゃん？ なんぞなぞ？

尾関 いや待って、女つてのはイッたフリとかあるからね。実際にとっわかんないよイッてるか
どっつかは。

マキノ いや、イキました。絶対イッた、イッたと思います。

尾関 なんぞわかんたよ、そんなの。

マキノ シッ、失神したんで。

菅野 ……おいおいおい！

丸山 すぎえ話しじゃないっすか！

尾関 ちよっ、待って俺、メモの用意するわ。

菅野 えー、ちよっと待って整理させて、でもセックスはしてねえんだろ？

マキノ はい。してないです。

菅野 じゃなに手マン？

マキノ 手マン？

菅野 手マンわかんねーのお前？

尾関 だから手で触ってイカせたのだったっついでよ。

マキノ あーあー、手で、そうですね。

尾関 すぎえじゃん。

黒川 そういつテクニックあるやつにも見えねえけどな。

丸山 つーか前から気になってたんですけど、マキノさんって、そういうセックスとか気持ちいいん
ですか？

菅野 え、なにになに？

丸山 だって痛みとか無いんですよね？ 快感はあるんすか？

マキノ ……多分。

丸山 なんすか多分っ？

マキノ　そりゃ自分では気持ちいいなあ、って思ってたってさ、ホラ、丸山だって、自分の快感と他人の快感とが一緒のものかどうかわかんねえだろ？

丸山　ええ？　そりゃそうかもしんないですけど……。

尾関　あんだけ風俗好きなんだから気持ちいいんじゃないじゃねえの？

丸山　でもマキノさんはちょっと違うじゃないですか？　特殊っつーか。

と、少し離れたところに行った上司風の男（大杉）が声をかける。

大杉　ま、良かったな。マキノにもそういうのが出来て。

マキノ　あ、はい。そうですね。

大杉　まともな社会生活というかな。

丸山　それじゃマキノさんなんか、まともじゃないみたいじゃないですか。

黒川　まともではねーだろ。俺たちみたいのは。

丸山　あー、そうですか？

大杉　大事にするよ。

マキノ　はい。あ、大事に、します。

大杉　じゃ、行くぞとっつー。

大杉がメンバー達に出発を促し、メンバーたちは返事をする。仕事の時間のようだ。以下、メンバー達、各々席を立って出発の支度を整えながら、

黒川　で何？　名前なんていうの、その人？

マキノ　……なんです。齊木……。

菅野　齊木ってお前なに、こないだのあれか？　「強制お引越し」の？

マキノ　そうですそうです。立ち退きのあの、

黒川　ああ、あれ？

菅野　なんだよ、あれ好きになっちゃったのお前？

マキノ　まあ、はい……。

尾関　ああ、そういうこと？　全然イカせたとかじゃねえじゃねーか。

マキノ　ええ？　そうですか？

菅野　まじめに聞いちゃったよ俺。

尾関　反省しないっ。

菅野・尾関　反省。

なご、マキノに軽口を叩きながらはけていくメンバーたち。
場面転換。

回想シーンとなって「こないだ」の「強制お引越し」の場面となる。

母 お父さんっ！
父 静かにしてる！

メキメキと階下でドアが破壊される音が聞こえる。
「泳ぐ魚」のメンバーたちが登場。

大杉、手元の書類を確認しながら以下の問答をする。

大杉 えーと失礼します、斉木さんですよね？

父 なに勝手に入って来てんだ。

大杉 斉木さんですよね？

父 なに勝手に入って来たんだってっつてんだ、不法侵入だぞお前ら、

大杉 斉木さんですよね？

父 そうだよっ！

大杉 ではこれより「強制お引越し」の執行を始めます。

菅野 あの、一応言っときますと不法ではございませんので、

黒川 こちら執行証書になっております。

黒川、「強制お引越しの執行証書」なるものを提示する。

父 知るかそんなもんお前、勝手な理屈つけて、なんだお前たちは、

大杉 ご家族は4名でらっしゃいますよね？ もう一人、娘さんは……上ですか？

父 娘はだからダメだっつてずっと言ってるんでしょう？ ダメなんですよ、うちの娘は。

黒川 (大杉の傍によって) ここあの、娘さんがご病気の……。

大杉 ああ、ここか……。父に(大丈夫ですよ町に出ても病院ちゃんとありますんで。

尾関 マキノ、上、見て来い。

マキノ はい。

丸山 あ、俺もいきます。

マキノ、丸山、階段を登って上へ行くこととする。

父 やめなさい、やめなさい、やめなさい、

父、母、それを止めようとするが、それをさらに他の隊員たちが止め、もみ合いになる。

マキノ、丸山は制止を振りきって階上へ向かい、退場。

この間、柴太郎はずっと録画を続けてくる。

宮下 申し訳ないんですが「強制お引越し」としてなっておりますの……。

父 いや、ですから、娘はダメなんですって普通の病院とかじゃ、
母 特殊な空気清浄機入れておりますんで、このままここに住まわせていただけかないと……、
大杉 ええ、ええ、それはちゃんと報告受けてますよ。じゃあもう迎えのバス来てますんで……。
栄太郎 録画してますからね！

急に大声を上げた栄太郎に対して隊員たち一瞬、静かになる。
少しの間。

大杉 はい？

栄太郎 これ今、録画してますから、気をつけてくださいよ。

母 そうですよ、ダメですからね暴力とか。

大杉 ええ、あの、普通に出ていただければ我々は何もいませんから。

父 絶対出ませんからね。何度も言ってますけど、ここ私の家なんですから。

菅野 しかしまあ、このあたりは強制お引越し地域に指定されちゃいましたんで、

父 殺されたって出ませんよ。

宮下 あの、みなさまに退去してくださいだつておりますんで、どうぞご理解いただいておりますね……、

父 ご理解なんか出来るわけねーだろ？ 水道も電気も止めていただいて結構ですってそういう言

ってんじゃないか？ こっちはそういう準備をちゃんと進めてきてんだから。

母 話ぐべらい聞いてくれたっていいんじゃないですか？

菅野 (苦笑して) これ、かなり聞いてるほうですよ。

母 全部聞き流してるだけじゃないですか、

菅野 あー、聞き流してたかもしれないですね確かに。

尾関 反省しないじ。

菅野・尾関 反省。

二人、反省のポーズ。

父 ぶざけんなっ！ なんで自分の家を追い出されなくちゃいけないんだよ！

黒川 すみませんが、例外は無し、とこのことになっておりますんで。

父 放つといってくれっていつてんじゃないか！

黒川 「アンカは絶対」ですから、

父 それがおかしいんですよ、大体、その「アンカは絶対」のもね、そんな、基本的な人権と
いうか、人として当然の権利よりもアンカが優先されるなんてのはね、

菅野 そういう世の中じゃないですか、今。

大杉 マキノ、まだかー？

マキノ 今、行きますー！

と、階上からマキノ・丸山が娘(ミヅウ)を連れて登場。

「……」と息が荒くなって、そのまま性的絶頂に達する。
場面転換。

◎欠席結婚式 その3

司会、司会補佐、登場。欠席結婚式の場面に戻る。

司会 ……というのがまあ、お二人の出会いということになっておりました、

補佐 衝撃的と申しましょるか、スキャンダラスと申しましょるか、

司会 会った途端に絶頂を迎えるなんて……。

補佐 これが相性というものなですかねえ。

司会 なんでも……さんはですね、元来、「持病」をお持ちだったそつななんですけどね、

補佐 はいはい？

司会 この出会いによって劇的だ？ いや奇跡的だと言っているもへらい病状が好転したんだと……。

補佐 ブラーボ！

司会、司会補佐、退場。
場面転換。

◎病室にて

場面、病院の待合室となる。父、母、栄太郎、マキノが話をしている。
栄太郎はここでも撮影をしている。

父 まあ「奇跡的に」って言い方もちょっとアシカとは思っただけど、や、実際、担当医の方も
こんな事例初めてだっておっしゃってて、な？

母 ええ、まあ。

父 なんて言やいいんだ、あの子の苦痛の限界点ていうのかな？ その頂点みたいのがさ、君が
来て無理矢理あの子を外に連れ出そうとした時にこう、突き抜けて？ 突破しちゃったって
いうか、

マキノ ホントすみませんでした。何もわかっていなかったもんで、

父 違う違う、いーんだよそれは。結果オーライなんだ。

マキノ オーライ？

父 だって逆にその、限界を突破したことであの子の中でその、グルンってひっくり返ったって
いうかさ、なんていうの？ あの、ネガポジ反転じゃないけどさ、写真がああ、白黒逆になって
「ガーン」みたいなの、

マキノ ガーン？

父 わかるでしょ？ わかんないかな？

マキノ いやあ、そもそもその「なんだかも過敏症」なんて聞いたこと無かったですし……。

父 まあ、だから簡単に「さよ、せつなんでもかんでもいろんな物質に対してアレルギー反応が出
ちゃう、っついでっ

マキノ 「なんだかもかぞへか」？

父 そう。たじろば、ペンキ塗りたてのこの行くとバーってじんま疹が出ちゃったりさ、

母 触れなくなるとダメなんだよ、ペンキ。

マキノ 触らなへんっせ？

母 そう。空気中に出てるんだっついで、さ、そういうなんか、物質がさ。

父 だから床とかを磨くあのワックスってあんだろ？

マキノ はい。

父 あれが合わないヤツだともうその建物は全部入れなかったりとか、もちろん排ガスとか粉塵
みたいなでダメになっちゃう時もあるし、

母 あと食べ物でダメになっちゃう時もあるしね、っついで、さ、さっついで……。

マキノ 大変だね。

母 でも誰が罹ってもおかしくない病気なんだっついで。

マキノ そうなんですか？

父 そうなんだよ。

母 それでマキノさん、

マキノ はい？

母 もう来ていたただかなくて結構ですよ。お気持ちは十分伝わりましたから。

栄太郎 (マキノを見ずに) 伝わってまーす。

少しの間。

マキノ や、自分で来たくて来ているだけですわ。

父 今日で何日目になるんだ？

マキノ ええ？

栄太郎 一週間になんじやないですかア？

父 あ、もうそんなになる？

母 ま、2日ほど来ない時ありましたけどね、15日と、16日と、

マキノ あ、あの時は仕事で、あ、あの、すみませんでした。

母 いろいろですよ全へ。

父 来なくたっていろいろですか？

マキノ はい。すみません。あ、とごうか、あの、う迷惑ですかね？

栄太郎 はっ(失笑)

父 そんなの当たり前じゃないの。

母 不愉快ですしね。

マキノ あ……ですよね、すみません。

父 会って、行かれます？

少しの間。

マキノ は？

父 会ってへ？ あのキコ。

マキノ いろいろですか？

父 本当はまーね、あの子の命を危険に晒したわけだから、……でしょ、だって？

マキノ はい。その通り、だと思います。

父 だけどなんか俺、単純にちよつと機嫌がいんだよ。ま、簡単に言や、あんたが奇跡起こした

みたいなものだからね。

栄太郎 この人は関係ないでしょ。

父 あるだろ？

母 単にあの子ん中とごうごう、そつごう時期が来てただけかもわかんないし、

栄太郎 そつごう。

父 でも変化が出たことは確かじゃないか。

母 それはそつだけじ……。

マキノ あ、い、や、身体のお加減、どうですか、

マキノ 「なかなかどうですか」？

マキノ ほう。

マキノ どう見えますか？ 元気がいいですか？

マキノ ま、ほちほち。多分。

マキノ (口真似をこつ) ま、ほちほち。多分。

父 そんな意地悪をする必要はないよ。良いと聞いては体調。いい何年かでダントツに一番元気なところだよ。

マキノ、頷く。

マキノ 良かったです。

マキノ マキノさん……。

マキノ ほう。

マキノ マキノさん、どうですか合っていますか？

マキノ 合っています。マキノ久太郎です。

マキノ 齊木……。

マキノ あ、はい。知っています。て、あ、すみません。

マキノ あたしも知っています。聞きまじりました。

マキノ ほう。

マキノ ほうほう。

マキノ あ、の、好むよ。

「聞いたぞー」と感慨深にマキノ。突然のことに驚く……。

マキノ 理解じゃないかと。なんだか自分でもわかんない、でもホントに。はい。好きだよ。

マキノ 頭おかしくなってますか？

マキノ いや、違います。おかしくないと。自分では、おかしくないと全然思っています。たまにその言われるとどうも、本当は全然おかしくないと、どうもだから誤解とどうですか、それでその又言われるのか、又言われるから、こっ、過言です。

マキノ おかしくありません。確信は。

マキノ さあ、おかしなところはない。

マキノ おかしくありません。

マキノ おかしくありません。

マキノ あ、の、手を触らせてもいいですか？

マキノ マキノさん……、手、さ、さ、さ……。

「大丈夫大丈夫、あ、あ、あー……イク、イ、イクーッ！」

「……、……、絶頂に達する。すべ平常心を装って、」

「……、ふいー。」

マキノ 「大丈夫ですか、なんか？」

父 「うんうん、へーキへーキ。」

母 「最近よくあることなのよ。ね？」

「……、うん。」

マキノ 「よくあるのですか？ ことなじむが？」

「……、マキノさんあの、」

マキノ 「は。は。」

「……、あたし前からちよっと疑問に思ってたことがあったんですけど、」

マキノ 「はい。なんでしょ？」

「……、泳ぐ魚」の人達っていろいろのは、どっぴり神経でやってるんですか？ ああいう仕事。」

マキノ 「どっぴり神経……どっぴりますよ？」

「……、心が痛まないんですか？ 他人を追い出したり、暴力を振るったりってこともあるわけだ。」

「……、じゃ、仕事の上で？」

母 「心が、痛まないんですか？」

マキノ 「そりゃ何も感じないわけじゃないんですけど……。」

母 「心が、痛まないんですか？」

父 「母さん？」

マキノ 「これはあの、よく言われることなんですけど、」

「……、は。は。」

マキノ 「たとえば死刑を執行する人というのがいるわけじゃないですか？ そっぴりたことを」

「仕事としてやってらっしゃる方がいる。それは個人的に殺人を行うのとは全く意味が違いますよ。」

「ね？ 僕らも同じですよ。」

マキノが話している間に舞台上の別の場所に「泳ぐ魚」の面々が登場している。

以下、舞台上には訓練を行う「泳ぐ魚」の情景と、マキノが斉木家の人々に話をする情景が二重に展開される。

◎「泳ぐ魚」 No.6

場面、「泳ぐ魚」の訓練の風景。

整列する訓練生たちの前で上官らしき男（森近、大杉）が訓示を垂れている。

森近 「カミカゼ」で決まったアンカは絶対に遂行する！

「……こんなの喜び人いるんですか？」

マキノ　まあ、最初はどつかつと思つたんですけどね、ただ、ぐるぐる身の周りの世話をしつたり、なんせずっと一緒に居ますからね、段々愛着が湧いてきちゃってますよ。

父　なんなら俺も一台持ってみたいもんだね。

母　……バックじゃねーの。

大杉、笛を吹く。するとメンバー達が整列する。

大杉　さあ！ 諸君の長い長い長い長い長い訓練期間もいよいよ残すところあとわずかです！ 今までの来た。ロングラッチュレイション！ 今日は仕上げの一貫として諸君にそれぞれ、自分のペットピヨンの解体をやらしてもらおうかと思ひ。

ざわつく生徒たち。

隊員　ザワ、ザワ。ザワ、ザワ……。

森近　ざわつくな！ 諸君も罪のないペットピヨンを解体するのは気が引けるかもわからないが、そんな心配はいらん。うすうす感じている者も多いかと思つたが、ペットピヨンは諸君の大切な伴侶ではないっ！……そんな良いもんじゃねえんだ、じつじつ。

大杉　ペットピヨンの真の存在理由は諸君らの問題行動や思想的な偏りをチェックする手段。言うなればまあ、チクリロボットってわけだ。

森近　ホラ、訓練の途中である日突然いなくなっちゃます連中がいただろっ？ あれは逃げたんじゃない。ペットピヨンが問題行動を報告してくれたんだ。

生徒たち　ざわ……。ざわ……。

大杉　さあ、そうだったわけだ。思う存分、解体してくれたまえ。

再びざわつく生徒たち。

最初、躊躇する生徒たちだが、ある生徒が怒りに任せて、ヘッドピヨンを殺すところ、次々にそれに乗乗する。

ペットピヨンの虐殺の情景となる。

それが終わって、まだ興奮冷めやらぬメンバー達に森近が声をかける。

森近　どつだ諸君？ 心の弱さを克服できたか？

生徒たち　はっ！

大杉　どつだ尾関？ 少しは強くなれたような気がするか？

尾関　はっ！ 自分にはもう、他人に依存する心というものはありません！

大杉　すばらしい。結構だ。

尾関　はっ！

マキノ あ、違います！ すみませんでした、なんか緊張してしまっ……。

父 あ、また手がラッコロ……。

母 わかってますよ。
父 そんな必死になんなくとも……。

マキノ わかりましたマキノさん。これからませちよちよ……。

マキノ ちよちよ……？

マキノ ちよちよ……？

◎娘の交際について

マキノの去ったあとの病室。

母 ダメダメ。絶対反対だからね。

父 一度とあの男には会わなごやうに……。

母 それは極端なごやうのちよちよ……。

父 うん。

母 だって意味無ごやう？ その気も無ごの……。

母 別にあなたとは、普通マキノさんが会った……。

父 何や「普通」……？

母 じゃなく……？

父 別にマキノさん個人がそんな、問題ある人間じゃな……？

母 バカかあなた？ いい？ これからは……？

父 うん……？

母 わかってる……？

父 だって別に……？

母 だってそついでしょ実際？

父 そんな頭っから反対されたんじゃこの子だってかえって、諦められなくなっちゃうっていうか
わ……。

母 だからあたしだって彼の人格を否定しているわけじゃないでしょ？ 「泳ぐ魚」の人なんか
ダメだって言ってるの。あんなのと結婚したら絶対後悔するよ？

父 この子のごとはこの子が決めたらいいじゃないか？

母 ダメよ。わかんない人ね。

父 じゃ、なに？ もっとお金持ちで、安定した職業だったらいいわけ？

////// お父さんみたいで？

母 ちよつと、あたしがいついそんなんと言ったの？ だいたい出版業界なんて今の時代、安定し
た職業でもなんでもないじゃない。

父 いや、え？ だからつてそつていう意味でお前に苦労させたことはないじゃないか、

母 だからそれは別に感謝してますよ、

父 だったら何でもそつていついそんなんだよね、え？

母 あ、ちよつと待ってこの話したら絶対長くなるからこの話は止めましょう。いじめんなさい。
あたしの失言でした。

父 なんだよね、じゃあ？

母 あたしが言いたいのは、だからあれよね、我が家を追い出されたのは誰のせい？ つて。「泳
ぐ魚」のせいじゃない？ マキちゃんだつて、どつせあんな仕事一生やれるもんじゃやないんだから、
本当に//////のじつ大切にしているつていついそんなんなら転職してもらえばいいじゃない？

父 そんなじつとお前、こつちが勝手に決められないだろ？

母 だからつて何でもかたでも一回いつい合わせられないでしょ？

父 それはだから、//////が判断すればこいついじゃないか。

母 出来るんですかこの子にそんな判断が？

父 じつはでも子供じゃなつたんだ、こいつだつて、

母 じゃ何？ //////はいついしたつていつい？ 結婚でもすんの「泳ぐ魚」の人と？

////// そんなじつは別に……。

母 ほら見なれつて。

////// あたしはただだ、じつじつな人とお話する機会が少なかったから……つていつい、それだけ！

間。

母 ……お話だけにすんのよね？

////// うん、わかった。……お話だけー

場面転換。

3章 麻痺

1場 狭い部屋

◎仲の良い男女が一緒にやるフボージ

||||| ヲドキん、 瀧野に聞こる。

||||| イタ……痛い。ちゅっ、ちゅっじ。

マキん ああ、じゅん。

||||| ……強さ。

マキん じゅんなんか、

||||| うっん、うっん。

マキん じゅんじゅんのなんか不器用で俺。

||||| (少し笑って) それじゃなんか器用なことがあるみたい。

マキん 別にないから。

||||| じゃあ、……あつじ。

マキん じゅんじゅん。

||||| の股間に手をあしながりマキん。

||||| せい。動かないで、せい、触さないでください。

マキん なる。じゅんじゅん。

||||| っ。

||||| じゅんじゅん。

マキん ちゅんちゅん。何だか不思議。何だか不思議。何だか不思議。

||||| 瀧野を叩く。

マキん 痛さ？ ちゅん。

||||| じゅん。ちゅん。

マキん ちゅんちゅん。痛くない。

||||| ……ちゅん。

マキん、ん、ん、ん。

マキノ、////////の股間に手を押し当てるよ、////////、再び喘ぎ声をあげる。

マキノ　ねえ。気持ちよくなっちゃうよってそんな苦い声を出すの？
//////　ふひひひひひ？

マキノ　だって気持ちよくなっちゃうのは、うねいとか楽しんとか、そうじゃないよ？。うれしい時、人は笑うんじゃないの？

//////　うれしい時、人は笑うけど、……エッチしながら爆笑してる人いないでしょ？

マキノ　ホントだ……。じゃあ、え？。じゃは苦しんのかな。そっかそっか苦しんのか……。。「死ぬー」とか言ってたもね？

//////　そうなのよになっちゃうのよめっちゃえません？

マキノ　じゃあもうやめぬ？。苦しんのはやめた方がいいよね？

//////　やめなっちゃうよ。

マキノ　ふひひひ？

//////　知らないよ。うーん……。楽しんから？

マキノ　苦しんよ？

//////　苦しんのは楽しんよ？

マキノ　んん？

//////　苦しんのは楽しんよ？

マキノ　ええ？。でもそっか。そっかめね。「苦しんのは楽しん」か……。そっかそっか。

人が「死ぬー」と言いつ時は、本当は楽しい時なのか。あね？。ねえ、じゃあさ……。あね？

//////　なにになん？

マキノ　だったら「楽しん楽しん」っていつる時は本当は、……。苦しんのかな？

少しの間。

マキノ、笑う。それで////////も無言で笑って答える。

マキノ　そうか、……。人が爆笑する時は、本当は苦しい時なのか。だからあん時……。、父さんは笑ってたのか！

マキノ、なにか重大なことに気づいた様子で駆け出す。
場面転換。

◎狭い部屋　その一

司会、司会補佐、舞台上の別の場所に登場して、

司会　えー、4歳の時、マキノ久太郎さんは一つの事故、と申しますか事件に巻き込まれてしま
っちゃう。

補佐 それを境にして、痛覚を失うことになってしまったんですね。

舞台上、別の場所が「エレベータ」となる。そこには少年時代のマキノが登場。場面、マキノの回想となる。彼は事故にあったエレベータ内に閉じ込められている。マキノ少年の上方から、救出に来た救助隊の面々が声をかける。

救助隊1 おーい！ 坊や聞こえるか？ おーい！

マキノ少年 ……。

救助隊2 坊や！ もう大丈夫だよ、聞こえてるか？ 助けに来たよー！

別の場所で司会、

司会 真っ暗闇のエレベータの中、マキノさんは若い救助隊の声で目が覚めたんだそうです。

エレベータの中、少年時代のマキノ、立ち上がる。

マキノ少年 お……お……。

救助隊2 おお！ 聞こえてる？

マキノ少年 おおおおおっきい声だなあ……！

別の場所で補佐、

補佐 というのがその時に抱いた最初の印象。

司会 人の声を聞くのは久しぶりでした。

再び、エレベータ。

救助隊1 大丈夫？ 痛いでしょうか？

救助隊2 生存者確認！ やりました！ 生存者確認ですっ！

救助隊3 おおおー！

生存者の存在にわきかえる救助隊。

救助隊の一人が無線で連絡を取っている。

救助隊1 はい！ あー、そうです、とにかく衰弱してますが、はい！
意識ははっきりしてお
りますんで、はい？ ……ああ、そうですかね、奇跡の生存者ですっ！

場面転換。

マキノと……の寢室に戻る。

マキノ 「奇跡の生還」ですっ！ とか言われてる。そのあと「おめでとう」「生きてる」って自分で感謝し続ける羽目になっちゃって……。

…… うんうん。

マキノ そりゃ生きてるってありがたうけど、思ひついでに、でも年がら年中感謝してらんないでしょ？。感謝するところが「仕事」になるわけじゃないんだから。

…… そだねー。

マキノ 生き残ったことは確かに嬉しかったんだよ。と思う。覚えてないけど。

マキノ、笑う。

間。

マキノ ……発見された時は、なんかものすごく久しぶりに光を浴びたからさ、その時は俺、単に「明るいな、しー」とかでテンション上がっちゃって。あのさ、そうそう、日本語だとテンションが高いことと光が強いことをごっちゃも「明るいな」って単語で表すでしょ？。

…… うんうん。

マキノ それ多分、偶然じゃないと思うんだよ。いや、他の言語とかよくわかんないけど、あのね、ちゃんと光があつて明るいな、それだけで気分も明るくなるんだよ。

…… じゃあ、暗いよってなの？

マキノ ……暗くなるよ。

場面転換。エレベータのシーンに戻る。

救助隊1 大丈夫か？ これ痛い？

救助隊2 痛くないか？

救助隊3 あーあー、バタバタで気持ち悪かったねえ、もう大丈夫だよ。

マキノ少年 全然、痛くない……。全然、気持ち悪くない。

救助隊2 ん、よーし、強い子だ。じゃあ、持ち上げるよ大丈夫？ これは痛い？

救助隊1 ああ……。

救助隊3 折れてる。折れますね。

マキノ少年 平気だよ。全然、痛くない。全然、気持ち悪くない。

別の場所で司会、

司会 その時マキノさんの左腕は、パッキリ折れていたといいます。

場面転換。マキノと……の寢室に戻る。

マキノ ビル火災に巻き込まれたんだって。つっても普通の事故とかじゃなくてあの「泳ぐ魚」の連中がやった、なんだ？ テロみたいなのやっつてよ、

||||| 大変だ。

マキノ 大変だったと思うよ。すげえでっかいビルだったし、なんか10個も20個もエレベーターがあるみたいなのこいで、それが火の海みたくなっちゃってさ……。俺、そんな時エレベーターに乗ってたんだけど、なんかそれがちよつどその、変なトコで止まっちゃったらしいんで、バーンと爆発みたいなのがあったのかな？ そんなで出らんなくなっちゃって……。で、やっばすげえデカい事故だったから全然すべに助けとかは来らんなくて、他にもなんかいっぱい、なんて言うんだ、もつと分かりやすい所で死んでいる人とかが沢山いたからさ、で、すーつとそのエレベーターの中にいて、結局なんだ、一週間べらい居たんだよ、俺、その中に。

||||| 一週間？

マキノ てかババいでしょ？ バイクの免許取れちゃうよ。いや取れないか。ん？ 取れんのか？

||||| ま、まあ、飯免べらい行けんじゃない？

マキノ あ、そつ？ 行けるかな？

||||| 知らないよ。

マキノ あー、だよな。

||||| そつでなつ？

マキノ うん、それで事故になった時にはエレベーターの中になんだ、人がいっぱい乗ってたらしいんだけどさ、8人とか。俺の親父さんとか弟くんとかも含めてみんな死んじゃって……。なんかねえ、それは覚えてんだよな……。「生きてんの俺一人かあ」て感覚はすつこいあったから。ものすこつこつまんなかったからさ。うん。暇だ。

||||| 超怖いね。

マキノ 超怖かったんだらうね。いや、そつこつ怖いとかは全然、覚えてないんだけど、それよりとにかく暗くて。つて印象のが全然強いんだけど、ホント何の光もなくて。だって普通さ、真つ暗闇で何日もとか過つてさなつこつ？

||||| そつだよね……。

マキノ 普通にしたら何？ 朝んなりや太陽は昇るし、暗くなりや電気点けりゃいいしさ、あったり前みたいにあるじゃん「光」つて？ でも、あれつてホントお金とかと一緒にあるとこにはあるんだけど、べつ、もつ無いとこには全然無いんだよ。だからもつみんなの携帯の充電切れちゃったらホント何も見えなくなっちゃつて。しかも腹はすげえ空いてくるし、なんかね、ベシットボトルに入ってた「なつちゃん」を少しつ親父にもらつて飲んでただけで、泣いても喚つてもほろつちよつこつこつかへくねなへつ、すーつとストレスでさなつが。

||||| じ・ぶ・も (笑)

もじりまでも、どじりまでもじりまでも、広がっていく空間と、広がっていく皮膚があって、痛みなんてものは、もはやこの世のどこにもあるはずがなくて……。そりゃそうだよ。だって俺の皮膚はもう宇宙そのものの大きさと等しいものになっているわけだから、当たり前のように中も外もない、俺の内側と俺の外側なんてものは初めからなくて、俺と俺以外のもの間には境界線なんてものはもう、どじりにもなくなっている。ただ、単純に、宇宙が、無限の俺の皮膚として、そこに広がっている……。。

エレベータの中にいる、マキノ少年が発言する。

マキノ少年 ……全然痛くない。全然痛くない。全然痛くない！ 全然痛くない！

この発言を最後に、マキノ少年の居るエレベータの場が消滅する。

//////がマキノに話しかける。

////// これはカンなんだけだね、

マキノ うん。

////// マキノ君はもう、痛がっているんだと思うよ。

マキノ どじりって意味？

////// ホントに何も痛くない人がこんなに臆病だとはどじりしても思えないから。

マキノ 臆病？ ……そんなこと言われたのは初めてだ。臆病なの？ 俺が？

////// うん。なんだかそんな気がするの。

~~~~~の携帯電話に着信が来る。

//////、////// 電話を手に取りつい、

////// お父さんだ。

マキノ おじいさま。

////// うん、何ださ？、は、もっもっ？ ……え？

場面転換。

#### ◎欠席結婚式 その4

司会、補佐、登場。

補佐 不幸、どじりものはいじりでも空気を読まないと訪れます。//////さんの一番幸せな期間は何の前触れもな、この日で突然、終わりを告げました。

司会 お父様からの電話はとても短、至ってシンプルな内容でした。

補佐 ミミさんのお母様が、くも膜下出血で倒れてしまったんです。

かりん、エリ登場。

かりん 短かったけど幸せだったから、これはこれで、良かったってことにしたい。

エリ ミミちゃんはそんな風に言っていました。

かりん 短かったけど幸せだったから、

エリ・かりん これはこれで、良かったってことにしたい。

かりん、エリ、舞台上を通り過ぎ、退場して行く。

司会 入院から一週間後の面会で、斉木家の皆さんは医師からこう告げられました。

舞台上、別の場所に母を除く斉木家の人々が集っている。

父 意識が戻る可能性は1%以下。

場面転換。

## ◎アンカで死刑 その2

新美、黒川、栄太郎の場面に戻る。

黒川が拘束されていて拷問を受けている。

新美、黒川を蹴飛ばして、

新美 ほれほれ、目エ覚ませ「ラ」!

黒川 はいはいはい。あー、なんすか、はい?

栄太郎 寝るな寝るな。意識失ってんじゃない面白がねえだろ。絵的にさ。

黒川 なんかこれ、……どうなれば終わるんですかね?

栄太郎 何度も言ってるんだろ。俺はさ、マキノ久太郎の居場所を教えてもらいたいんだよ。

黒川 こっちもあの、何度も言ってるように、……知りません。

栄太郎 そう簡単に言わないでよ。長いことマキノの居場所を追いかけて? ようやく掴んだ希

望の星なんだからあんたは。

新美 320番「左肩」……です。

栄太郎 把握した。よし、やっちゃって。

新美 はい。

新美、電動ドリルの電源を入れ、肩に穴を通す。



黒川 そんなのはそっちのあの、もう一人の彼に任せればいいんじゃないですか？  
栄太郎 ダメダメ。

栄太郎、新美を少しだけ見る。改めて黒川を見て、

栄太郎 なんていうか品がないんだよねア。むきだしの現実でもんにはぞ。

黒川 ……はあ。

栄太郎 やっぱごうごうという映像表現みたいなさ、フィルターを一個かませたほうがより満足感のある「絵」に仕上がるごうごうかな、

黒川 へー、なんだかよくわかんないですけど……。あれですか、言ってみりゃあなたには、現実を直視できない、っていうことなんですかね？

栄太郎 ……別にそういう解釈でも構わないけどさ。ごうち（カメラ）は他人には任せらんねえごうごうだよ。

黒川 で、マキノと会ったらやっぱりあれですか？ こんな感じでぶちのめしたい、とかってことなんですかね？

栄太郎 そうそうそう！ あったりまえじゃん！

黒川 でもあの、マキノはあいつ、痛覚ありませんよ。

栄太郎 あれだろ？ 先天性無痛無汗症？ あるいはなんだ、ニューロパチーとか言うのか？

黒川 ニューロ……？

栄太郎 ニューロパチー、遺伝性感覚性自律神経ニューロパチーとか言ったっけかな？

黒川 まあ、そんなややこしい病気なのかちょっとわかんないですけど……。

栄太郎 だから拷問とかあんま意味無いよ、ってことを言いたいの？

黒川 それはあなたの側の問題じゃないですか？ 痛がらない相手に痛みを与えてもストレスは解消されるのか、って……。

栄太郎 ストレス解消でやってんじやないよ。

黒川 じゃなんですか。復讐ですか？

栄太郎 へー、まあ、復讐っていつてもいいんだらうけど……。なんせあいつは姉ちゃんと結婚するごまで言ってたんだから。

黒川 へー、そうなんですか？

栄太郎 そうなんだよっ！

栄太郎、かなり怒っている様子。  
少しの間。

黒川 ……えーと、あなたあれですか、結構その、シスロンとごうごうか？ そうごうごうあれでお怒りになってらっしゃるんですかね？

栄太郎 随分余裕あるね？ 黒川さん。

黒川 風通し良くなって心も軽くなったんじゃないですか？ あー、でもマキノが結婚でのもいいですねえ。そう出来れば良かったのに、と俺も思いますよホントに。

栄太郎 なんだよ急におまえ？

黒川 もう本人たち居ないんであれですね、「欠席結婚式！」みたいな。

栄太郎 何いってんだお前？

黒川 いや、なんかそういうのも楽しいなあ、とか思ってる。ああ、いいなあ……。

新美 380番、ウオノメです。

栄太郎 ウオ……。

新美 (黒川に) お前、ウオノメあんの？

黒川 左足に、ちょうど……。

栄太郎 よし、やっちゃって。

新美 はい。

栄太郎 次、400番。

新美、ドリルの電源を再び入れ、黒川の「ウオノメ」にあてがう。  
場面転換。

## 4章 不随意

1場 陛下

◎「泳ぐ魚」 その4

再び「泳ぐ魚」の談話室への風景となる。

尾関 そんなに？ 付き合ってるわけその人と？

マキノ はい。多分。

黒川 多分て何だお前。

尾関 わっかないもんすね。

黒川 マキノがなあ。

丸山 へー。続いてんすか、うなぐだの？

マキノ おお、まあ。

菅野、少し芝居がかった調子で、

菅野 でなに？ 結婚とかをするのかねマキノ君は？

マキノ え？

尾関 や、それはないでしょ。

菅野 なんでだよオ？

尾関 だってプロポーズとかすんすかこいつ？ うわ、なんか気持ち悪い、想像しちゃった。

マキノ 結婚はちよっぴ……。

尾関 気が早いよなあ？

菅野 でもこいつだってすごい年だからな。

黒川 まだ付き合いたばっかなんだろ？

マキノ はい。そうすね。

尾関 そんなすべはなあ。

丸山 何いってんすか。自分なんか付き合って一ヶ月で結納したくせに、

菅野 なあ。

尾関 いや、だから、あなはマイニングっついでいっつか。

菅野 「ビビッと婚」「だオ」「ビビッと婚」。「ビビッと」「ンロ」だよ。

尾関 ま、ほら、俺は前のビブス付き合っついでダメなっちゃったからな。早くいっついでいっつかと思っついでいっつか。

丸山 そういっつもんすか。

黒川 逃げられて大泣きしてやんのこいつ。

尾関 それは……。

黒川 自分で結婚嫌がってたくせにな、

菅野 だから。ピロっとコンロしたんだろ？ な？

尾関 いや、ピロっとコンロじゃないですけど……。

菅野 じゃなんだ。パパッとライスかよ？ お？ はい、パパッと、

尾関・菅野 パパッとライスー！（ちよっと歌う）

黒川 ヤケになんなよ。

宮下が笑いを堪えている。

菅野 なに？

宮下 いや、すみません、そのメモリー、……。「ピタットハウス」です。

顔を見合わせてる尾関、菅野。

菅野 でも結構長かったよな前の女、7年とかだったけ？

尾関 や、9年す、9年。

菅野 どーよ、それ？ 刺されても文句言えねえぞ。

尾関 や、いろいろあったんすよ俺も。ま、結婚とかはむしろ相手に悪いのかな、とも思っちゃったし、

大杉 結局、タイミングなんじゃないか、そういうのは。

一同 おお……。

少し離れたところにいた大杉が会話に加わる。

大杉 どうなんだ、本人としては？

マキノ 俺は全然いいんですけど、なんか今、彼女のお母様がちょっと病気で倒れちゃってまして……、

大杉 悪いのか？

マキノ はい。かなり悪いみたいなんです、なんていうか、そういう雰囲気じゃないっていうか、菅野 ま、ま、そりゃそりゃだろってな。

と、森近、側近、登場。

◎「泳ぐ魚」その5

場にいる面々、改まって姿勢を正す。

大杉 森近さん、ご無沙汰しております。

森近 おお、大杉ちゃん、久しぶり。なんだかんだ職場でしか会わないね。

大杉 今度ぜひまた飲みでも、

森近 そんなこと言っちゃってすっぽかされてるからなア。

大杉 いや、いつでも、お付き合いたいしますから。

森近 じゃ近いうちホントに行きましようよ。ね。黒川くんも連れてき。

大杉 はい。

黒川 あ、はい。ぜひ。

森近 今日はね、辞令があって参りました、と。紙ちょうだい。

側近 はいっ！

側近、森近に何やら書類を手渡す。

大杉 整理っ！

整理する隊員たち。

森近、厳かな雰囲気を読み始める。

森近 「泳ぐ魚」第24分隊へ、3月5日付アンカを伝える。「全国の遷延性意識障害者の臓器をゲットせよ！」以上！

少々の間。

菅野 すみません、センエンセイ、……この話は？

森近 「遷延性」はな、……漢字は難しへへへへわからない。ま、この状態が続くといわれる「植物状態」ってやつにならなかつた。

菅野 ああ……。

森近 今回のアンカはそういうった「いわゆる植物状態」の患者の身体を預かってだな、その臓器を移植用として提供させる、ってことなんじゃないか話だ。

丸山 移植用として……？

菅野 しかしあの、植物状態ってというのはまた脳死なんかとは別ですよわ。

森近 もちろな。

菅野 てことはあの、死んでない人から移植するってことは、その人を殺すってことになっちゃうかと思っちゃうんですけど……。

森近 もちろな。

尾関 あ、そっち系か……。

菅野 そっすかあ……。

少しの間。

森近 移植の意志に関わらず強制的に、って通達なんってるから、まあ、なんだ？ ありがた迷惑みたいなアンカだな。(改まった調子で)今回もまた、強烈に人の恨みを買う仕事かとは思いますが、諸君らの実行力一つに行政組織の政治力の全てがかかっておる。と、いうことで各員、奮起して事に臨んでくれ。いいなっ！

多数 はっ！

森近 健闘を祈る！

と、言いながら森近は帰ろうとするが、それを黒川が呼び止める。

黒川 森近さん、これ、大丈夫なんですかね？

森近 ん？ 何がだ？

黒川 いや、これって、え？ 陛下が、含まれてしまっんじゃないでしょうか？

少しの間。

森近 問題ない。陛下はこのアンカの対象外だ。

黒川 いや、どうして、ですか？

森近 対象外は対象外だ。それ以上何かあるか？

黒川 いやでも、陛下は「いわゆる植物状態」にあるっていう風に聞いているんですけど？

森近 そっすい説も、ある。

黒川 え？

森近 ……黒川君は陛下のご病状を自分の目で見てきたのかな？

黒川 いや、見てないんですけど、

森近 だったら憶測でものを言っちゃイヤカンよ。

黒川 じゃなんですか？ 陛下はこのアンカの例外事項ってことになるんですかね？

森近 アンカに例外は無い。当たり前だ。

黒川 ですよ、だから……！

森近 陛下が「いわゆる植物状態」にあるんじゃないか？ っていうのは単なる噂だ。よって陛下

下は対象外、問題は無い、と、そっすいことなる。

黒川 何か理屈が通らないように思えるんですけど……。

森近 どこがだね？

黒川 はい。と言いますのは、世間では陛下が、「いわゆる植物状態」にあるってことじゃもう半

分、常識みたいになっすいんかと思っすけど……。

森近 違っすい言っすいじゃないか？

黒川 明らかに例外事項を認めるっすいことになりますよな？

森近 陛下は！……現在も闘病を続けておられる。よって対象外だ。大杉ちゃん、よく言ってる聞かせておいてよ。

大杉 申し訳ありません。

黒川 いやしかし自分は原則に従って行動したいという……。

大杉 黒川！

森近、側近、退場。

そのあと黒川、退場。

場面転換。

## ◎亜梨沙からの質問 その2

電話の音。冒頭と同じく高山と亜梨沙の電話となる。

ただし、今度は高山から亜梨沙へ電話をかけている。電話に出る亜梨沙は寝起きである。

高山 ああ、もしもし？ 亜梨沙さん？

亜梨沙 ん、おはよう、高山へん？

高山 ごめんなさい、もう、寝てました？

亜梨沙 んん？ 今何時？

高山 夜の一時前ですけど、いしも寝てますか？ 一じいつ時間は。

亜梨沙 んー、結構いしもは起きてるんだけどね、今日はなんか、寝た。

高山 大丈夫ですか今？

亜梨沙 (少しふざけた調子で) ん。大丈夫だ。なんだね？

高山 あの、先日のあれなんですけど宮下さんは全然わかんないです。連絡つかないんです。

亜梨沙 うーん……。総次郎もダメだった？

高山 はい。ダメでした。

亜梨沙 つつかえねーなー、もー。

高山 いや、結構いろいろ動いてくれたんですけど、なんか思った以上にハードル高くて。

亜梨沙 そんなに簡単なことではなかったってことだよ。はは。

高山 いや、今口言いたいのは別にそうじゃないよ、あの、いよいよだ亜梨沙さんから電

話受けて俺もいろいろ、今出てるアンカとか調べてみたんですけど、

亜梨沙 うんうん？

高山 あれですか、亜梨沙さんのお友達が巻き込まれてるっていうのは、なんか「いわゆる植

物状態」の人をどうしようもなかったってこと？

亜梨沙 ああ、それそれ。だと思っよ。

高山 べ、こないだなか、お母さんとの身代わりがべつとつかっておっしゃってましたよ、お母さん。

亜梨沙 「おっしゃって」って辞めておきな。

高山 ああ、すみませんなんか仕事のククセで。

亜梨沙 高山くんなんか喋り方ちゃんとしたよね。社会人て感じ？

高山 元々そんな、雑にしゃべんないですけどね、俺は、

亜梨沙 高山くんてちょっとすごいところあるからなあ。バカ丁寧というか、バカ真面目、……バカ？

高山 ……明日かけ直しますようか？

亜梨沙 なんでよ！ 別に大丈夫だよ。あ、もうなんか起きよ。はいっ！ なに？ 起きたよ。おはようっ！

高山 あ、はい。おはようございます……。それでその、亜梨沙さんのお友達の話なんですけど、亜梨沙 うんなん？

高山 その人のお母さんが「いわゆる植物状態」にあるって聞いてびっくりなんですよお。

亜梨沙 そうそう。でなんか、その子がお母さんの身代わりになるー、とか聞いて聞かないんだけ、

高山 そしたら俺、考えたんですけど、このアンカはもしかしたら、放つとしてもひっくり返るかもしれないよ。

亜梨沙 え、マジか？

高山 はい。同じくホラ、天皇が「いわゆる植物状態」になってる、みたいなこと、いろいろテレビでやってんじゃないですか？

亜梨沙 あ、そうなの？ いや、え？ ニュースでめっちゃやってるじゃないですか。

亜梨沙 そうなんだ。あんまりわかんないんだけど、ごめん、あたし全然、見ないからさそうさ、

高山 ま、とにかく重体なんですよ。

亜梨沙 それがなんか関係あるわけ？

高山 アンカを実行しようとしたら天皇の臓器を移植しなきゃいけないんじゃないですか？、で、そんなことばかしてるわけないと思ってる、今、議論がいろいろ出てるんですよ。

亜梨沙 うーん、どうして？

高山 例外事項が発生するとアンカは中止になります。「アンカは絶対」というのが原則ですからね。例外が出ちゃうような無理難題は最初からやらないことになってるんです。

亜梨沙 へー。そうなんだ。だったらこれって……。  
高山 はい。だから多分、このアンカは崩れますよ。

場面転換。



黒川 いや俺も普通に考えたら逆の結論になっちゃったんだけど？  
尾関 はい……。

黒川 深く考えるからかえっておかしくなんだよ。もっとシンプルに考えてみ？ 「泳ぐ魚」の行動原理はなんだったよ？ ホラ？

尾関 「アンカは絶対。例外は無し」

黒川 そうそう。そんだけのことだろ？

尾関 まあ、そうじゃすげえ、

黒川 ですげえ、なに？ ん？

尾関 いや……。

黒川 ですげえなんだよ？ ちゃんと答えろよ。

菅野 いや、黒川さんそれは相手が悪いっていうか、流石にちょっとアシですよ、

黒川 アシって何だよ？

尾関 いや普通にあの、一般人と同列には考えられないじゃないですか？

黒川 だからどうしてって？ 「流石に」とか「普通に」とかやめてくれよ。そんなこと基準に考えるんだったら最初っからいらねえだろ俺らみたいのは？ 決断できる政治、実行できる政治、そのための組織が「泳ぐ魚」だったんじゃないの？ やった方が良いのか悪いのか、俺らが判断しないってことに意味があったんじゃないの？

菅野 まあ、ま、でも右翼とかも黙っちゃいないだろじし……。

黒川 右翼って(笑)。

尾関 いや、そうじし空気じゃないですよ。

問。

黒川 ……まあ、わかるよ、尾関のそういう「配慮」もさ。だけど、よく考えたほうがいいよ？ そんなもん本当に関係あんの？ いやいやいや、ねーから。少なへとも俺はさ、誰が何と言おうと「アンカは絶対、例外は無し」って原理原則に従ってこいまでやってきたわけだし、お前らだっつてそうだろ？ 空気とか一切読まねえで今までやってきたわけだろうが。というか、アンカが絶対じゃないんだったら救いたい命なんか山ほどあったし、聞き届けてやりたい願いとが、泣き言とかさ、なんか沢山沢山、数えきれないほどあったろ？

尾関 ありましたけど、それは……。

黒川 例外のあるルールなんかルールじゃねーって言ってきたろ？ ルールがねーんだとしたら俺達はどう組織じゃねーだろ。組織じゃねーんだったらこんなもん仕事じゃねーよ。だったらー！ ……俺は辞めるしってんだよ。だろ？ お前らだっつて。

菅野 黒川さんあの、お気持ちわかるんですけど、多分ケンカ売る相手を間違えてますって、それ。

黒川、菅野のせいねお前らだっつて。



黒川 だから、筋の二つも通せない集団が組織と言えらるるのですかねって言うてんじやないですか？

大杉 もちろんルールは重要だ。特に俺達みたいな組織はそれがすべてと言ったっていい。だけど生き残るってことはそれよりも重要なことだ。ルールが残って組織が滅びるなんてことが起きたってしょうがないんだ。いいか？ まずはこの組織を生かしているものは何か、それを見極める。流れに逆らったってしょうがない。原理だ原則だ、なんていうのは全部生き残ったあとの話だ。

黒川 じゃあ伺いたいんですが大杉さんは一体、……はあ？ 一番肝心なものを捨てちまったあとで何を守るって言うんですか？

大杉 守るってことが一番肝心なことだろ。

宮下 あ、あの………！

宮下がふいに席を立つ。

少しの間。

菅野 なに？

宮下 僕もあの、一応、黒川さんの、意見に賛成です。一応。

黒川 ……そう。

宮下 はい。僕もあの、そういう、やってましたんで……。

黒川 うん……。

宮下 はい。

黒川 ありがとう。

宮下 いや、……はい。

黒川、周囲を見渡し、

黒川 そんなじゃまあ、他の連中はそうでもなかったと聞いていこうと、

丸山 俺はあの、なんかちょっと、よくわかんねーんですけど、

黒川 だろっな。

丸山 え？

黒川 マキノはなんかねーのかよ？

丸山 黒川さん、ちょっと……。

マキノ 俺はあの、……個人的に、このアンカはやりたくないです。

黒川 個人的に？

マキノ あ、いや、黒川さんの言ってるみたいなの、そういうなんか、正しい感じのいじやなく

て、なんか、あれ？ 今言ってるのかどうかわかんないですけど……。

大杉 なんだ言ってるみる。



マキノ　だって他の人嫌がるじゃないですか、知り合い殺すの？

尾関　だからお前が重宝してきたんだろ。

マキノ　まあ、そうなんですけどねえ……。なんとかならないっすかねえ？　俺、こんな軽い感じじゃすげー、結構マジななすげー。

大杉　まあ、それはわかってるよ。

マキノ　ええ？　ホントですか？

菅野　わかってるわかってるよ。お前がこんなこと言っつの初めてだもんな。

マキノ　はい。ですわ。

大杉　だからそれは個人的な話だろって。

少しの間。

マキノ　これもう、なに話してもダメなパターンですかね？

菅野　わかってんだろ最初っから。

大杉　話合いじゃ決まらんことを決めるための組織なんだからよ。

マキノ　はい……。

間。

マキノ　どうしてやろうもありませんか？

間。

マキノ　なんとか助けられる方法とか……？

尾関　まあ、もしもそういふ方法があったとして、な。

マキノ　はい。え、あるんですか？

尾関　もしもあったとして、だよ。

菅野　ちゃんと聞け、バカ。

マキノ　はい。あったとして、

尾関　その方法をマキノは選ぶわけ？

マキノ　え？

尾関　そんなことしたらマキノが今までやってきたことはなんなのって話しになるよ？　単なる趣味？　遊び？　ついでに、

マキノ　仕事です。

尾関　だよな。仕事だからお前は他人の人権というかさ、奪う権利があったんじゃないの？

マキノ　はい……。

菅野　今さらお前、自分の都合悪い時だけ仕事人辞めて、一個人には戻れねーだろ。

大杉　黒川もな。

黒川 いや、こいつと一緒にされても俺は困っちゃうわはな。  
大杉 まあ、とにかく時間だ。会議はこんぱらいつにいつ。  
黒川 なんも結論出てないじゃないですか。  
大杉 とにかく今日は解散。黒川も考え直せ、ちょっと頭冷やして、な？ 宮下も。な？  
宮下 はあ……。

会議に参加していた面々が退場する。

黒川、マキノ、宮下の三人が残る。

◎「泳ぐ魚」 267

マキノ どうしますんですか？ 黒川さん……。

黒川 さあ。

マキノ ねぇ。

黒川 このアンカは一応仕事として……。

マキノ はい。

黒川 っつけないと追われる側になっちゃうからな、俺らが。

マキノ どうですかね。

黒川 まあ、この一仕事やって、それでまあ、……辞めるかなあ。

マキノ 辞めちゃうんですか？ 黒川さん。

黒川 お前じつすんの？

マキノ やあ、……わかんないです。

黒川 うん……。

少しの間。

黒川 まあ、めっけり考えればいつにいつじゃない？

マキノ 想像できなそうです。

黒川 ん？

マキノ いや、なんか「泳ぐ魚」を辞めて、っついで自分が、想像できないます。

間。

黒川 長いしな、お前せ。

マキノ 想像できないます。

黒川 わかったよ(笑)

間。

黒川　じゃあな。

黒川、退場。

マキノ、宮下が残る。目を見合わせる二人。

宮下　あ……。

宮下、何かを言おうとして言わない。

宮下、退場。

マキノだけが残る。

### ◎齊木家との交渉

父、栄太郎、ミミミが登場して、場面、齊木家となる。

父　マキノさん、なんとかないないの？　その、アムカってごじごじのまぢ、たまにはそごじごじ、例  
外事項があったっていいんじゃないの？

マキノ　いや、……アムカは絶対です。

父　だだけごじごじも何言っても聞かないからさ、意地の張の合いみたいになっちゃってんじゃないの？

マキノ　僕は別に、そごじごじもりは無いんですけど、

少しの間。

父　そもそもあなたには家を追い出されてるわけだし、それで今度、母とごじごじ、ごじごじ、  
方一遍に持ってっっちゃおごじごじの言いつのかぢ？

マキノ　……。

栄太郎　許さないですよ。

マキノ　え？

栄太郎　いや、個人的に。俺は全然、マキノさんの立場がどうとか知らないんで。個人的に絶対、  
許さないですよ、俺は。

マキノ　……。

栄太郎　わかってんのかよー！

ミミミ　栄太郎！

少しの間。

マキノ はい……。わかっています。  
父 行こう。

栄太郎、父が退場。

マキノとミミミだけが部屋に残る。

◎ミミミの使命感

マキノ ……じじいも気が変わらなう？

ミミミ 変わらない。お母さんを殺すんならまずはあたしを殺してからして。

マキノ それじゃ、僕は君を殺さなくちゃいけない、のかな？

ミミミ じいね。

マキノ じいねってそんな(笑)

少しの間。

マキノ じいね笑じいじいじゃなかったか。

ミミミ あははははは。

ミミミが爆笑する。

一人、沈黙する。

ミミミ ……ホントだ。笑いどじいじゃなかったね。

マキノ え、なんで？ なんでそんなお母さんの言はないじいをするの？ きつとお母さんだ

って、自分のために娘に死んでほしいなんて、そんなこと絶対思っていないと思うんだけど、

ミミミ だったらマキノさんだってなんであたしたちのこと見逃してくれないの？ じいじいね

んな、あたしが言はないじいをするの？

マキノ うーん。そんなさ、これって決めつけないで考えをこう、……広くしてさ、

ミミミ や、考えたけどねあたしも。うん。全然、考えたんだけど、無理、と置いて。

マキノ 何が？

ミミミ え、だって、マキノくんがさういう、お母さんを殺すみたいなのをするわけでしょ？

マキノ でも実際、お母さんの意識はもう無いわけじゃない？

ミミミ でも死んでないから。

マキノ それに殺すんじゃないかていう、移植を待っている人のために身体を提供していただくと

さういって、

ミミミ でも死んでないから。

マキノ うん……。…。



三三三 あたしにとってはそれが全てだから。

場面転換。



母 まだダイエット？

亜梨沙 あと2キロなんで。

母 そんなに気がいらないの？

亜梨沙 や、マジ超デブなんであたい、お気持ちだけ。

母 太ってないじゃない。

亜梨沙 マジ隠れデブなんで。ゴロりますよホント。

母 そーお？

亜梨沙 これ以上なかったら隠れじゃないデブなっちゃうんで。お気持ちだけ。

母 まあ、じゃあいいじゃ。

母、少し笑ってそれ以上強くはすすめない。

////// ……アリちゃん、じゅめえね。あたしにんじゅめえだよ、

亜梨沙 んん？ なんで謝るの？ ミミちゃんなんか悪いことした？

////// した。ごっぴいした。

亜梨沙 なに？ してないよ。

////// ごっぴいしたの。

亜梨沙 ええ？ 何？

母 アリちゃん遅いからずいっと怒っていたの。ね？

////// 顔へ。

亜梨沙 そうなの(笑)？ いや別にそんな。

母 すっごく怒ってたんだからせう。

////// お母さん…

母 はいはい……。アリちゃん時間は大丈夫なの？

亜梨沙 はい。母に電話してききましたよ、

母 そっ。そっじゃあ、なんかあったらずいっと呼ぶね？

亜梨沙 はい。

母、退場。

亜梨沙、////// ふたりきりになん。

////// びじびじだった、卒業式？

亜梨沙 んー？ なんかねえ、みんなキチンとしてた。

////// びーん。



……卒業だね。

西梨沙 え？ ああ、うん。そうだね。

西梨沙 アリちゃんも卒業していいよ、あたしのじい。

西梨沙 ええ？ なにいったの。

西梨沙 来なくていいから。てか、アリちゃんもう来ないで。絶対来ちゃダメだよ。

西梨沙 なんてなんで？ また会いに来るよ、全然。

西梨沙 だってこんなのアリちゃん面白いわけないもん、ずうっとあたし寝てるだけだし、

西梨沙 いや……。

西梨沙 アリちゃんは毎日いろんな事があるって、ごろごろ面白く話もあるしや、友達もいっぱいいるから沢山お話あるんだけど、あたしは全然、そういうのは無いわ、

西梨沙 全然西梨沙ちゃんの話あたし面白いよ。すっごく楽しいし、だって西梨沙ちゃん、ごろごろ

あたしの知らないこといっぱい知ってたりとか、本とか漫画とかいっぱいおすすめてもらったりして、  
し、てか西梨沙ちゃんのおすすめて本リストとか作って置いてあるからや、お家で、

西梨沙 ありがとね。でも、もう来ないで。

西梨沙 なにや？

間。

西梨沙 タマごでもダメ？

西梨沙 だってアリちゃん4月から中学生じゃん？

西梨沙 うん。

西梨沙 あたしは違うもん。

間。

西梨沙 ホントはアリちゃんと会ってもあんま楽しくないんだよねー、あたし。

西梨沙 ええ？

西梨沙 だってアリちゃん全然なんか本とか読まないし、てか漫画も読まないじゃん？ 音楽とか

も全然聞かないし？ 別にそれはそれでいいと思うんだよ、リアルが充実してんだからさ。別に

そんなもん今のアリちゃんには必要なのかな、って思うけど、でも正直それはさ、あたしとは話

話が合わないのになって、それは当たり前じゃん、だって？ てゆうことはなんか、薄々っていつか、結構前から感じてたことだし、それで中学校とかに行ったらもうなんか時間も無くなるし、

アリちゃんは制服とか着て、なんかすごいカワイイ感じになるわけじゃん？ あたしパジャマだし、みたいな(笑)。正直さういうのってなんか、お互い疲わちゃうんじゃないかと思って思うし

西梨沙 「卒業」って結構いい区切りって思われ、

西梨沙 ……。

西梨沙 ……。



////// うつろいちゃってさー。なに？

亜梨沙 もつろいちゃう。

母 違うのよ、ホント、だって、あの子アリちゃん来るまでずっとアリちゃんアリちゃん言っていて、ホントなんだって、わかぬわしよ？ 今日アリちゃんだって卒業式なんだから他のお友だちといるあんのかついでに言ってるのよ、「輝い輝い」って言って聞かなくて、そこで今度は泣き出しちゃってホント、アリちゃんとか会っこの楽しみまでしてただから、

亜梨沙 わかります。

母 うん。

亜梨沙 (//////の方を向いて) //////ちゃん、あたし……。

////// 嘘だからね。いよ、マジ聞いって今、びっぴりしたんだけど、全然そういう事実はないし、泣いてたのとか全然別の理由だし、てか、めんど、正直今アリちゃん来るのとか忘れてたから、あ、そっだった？ みたいな？ ホラあたし曜口感覚ないっていつかさ、すうっと家にいるから？ だからもう、ホント来ないでいいから。てか、来ないで欲しいんだ。ホントはさ、アリちゃん来るご家の中も全部消毒やり直さなくちゃいけないし、お母さんとかもこんな、今は、いとお母さんみたへしちゃってるけど、結構面倒くさがってるからさ。だって、しょうがないよ。アリちゃん見たらびびりすると思っけ、すうすう消毒しなおさなきゃいけないだから、もうしょうがないんだから、それは、そういう病気なんだからさ。外から来る人なんていへらシヤ「ー浴びても着替えても全然ダメなんだから、

亜梨沙 もつわかったよ。

////// ……うん、ならいんだけどね。うん。

間。

亜梨沙 あーっ！ もう超ムカッ！

間。

亜梨沙 手が繋がりたい。

////// 手？

亜梨沙 今すす、へ、//////ちゃんの手が繋がりたい。それ//////ちゃんのこと、きゅーっしてあげたい。あたしが//////ちゃんを抱きしめてあげてあげて、ほねね、いんなのなかでいっしょなめるのよー

少しの間。

////// まあ、それをわたくしちゃんついでにめたしは何回か熱いかなをわねるいじりになるんだけどね……(笑) っ、あーもうごめん最悪だ。ホントあたし死んだ方がいいね。マジ、クソだ。うそ、そ、大丈夫、死なないから安心して。アリちゃん、ホントにありがとうね。ホントマジ、超いい奴だよ、ア

しちゃん、大好きだ。うわー、もー、ホントありちゃん今日はお帰りがうま。マアこちゃん、卒業おめでとう。ね。

間。

亜梨沙、帰る。

母 あ、マアこちゃん、いっしょ。

母 亜梨沙を連れて帰るから、お母さん、お父さん、お爺さん、お婆さん。

---

◎母と娘

お母さん、いっしょに帰るの。

母が、いっしょに帰るの。

母 あんたねえ……。

////

母 気持ちはおかかぬわ。……マアこちゃん、いっしょに帰るの。お母さん、お父さん、お爺さん、お婆さん、お母さん、お父さん、お爺さん、お婆さん。

////

母 今度来てくれたら、お母さん、お父さん、お爺さん、お婆さん、お母さん、お父さん、お爺さん、お婆さん。

////

母 来たねえ。

////

母 来たねえ。

////

母 来たねえ。

////

母 また来てね。いっしょに帰るの。お母さん、お父さん、お爺さん、お婆さん。また来てね。いっしょに帰るの。お母さん、お父さん、お爺さん、お婆さん。

////

母 来たねえ。

////

母 来たねえ。

////

母 来たねえ。

////

////





## 6章 うれしい悲鳴

1場 真空

◎亜梨沙からの質問 その3

暗転中から電話の音がする。

徐々に明るくなって、高山と亜梨沙の電話の場面となる。

亜梨沙から高山への電話である。高山が電話に出て、

高山 あ、はい？ もしもし？

亜梨沙 ……高山くん？ 今大丈夫？

高山 あ、はい？ 大丈夫ですけど……。

亜梨沙 あのね、こないだのあれなんだけど、もうダメみたい。

高山 ダメ、どうしよう、

亜梨沙 アンカをひっくり返す方法はないかなあって思って、……ちゃんもかなり考えてたみたいなんだけど、全然、方法は何もないみたいだよ。

高山 そうなんですか……。どうしよう、いめんささい、その……ちゃんどうのはどうなっちゃうんですかね？

亜梨沙 お母さんと一緒に殺されちゃう？ と感じ。

少しの間。

高山 なんとかなんないんですかね？ だってそんなお母さんのためなんていって娘さんが亡

くなっちゃったら、絶対、お母さんだって喜ばないと思うんですけど、

亜梨沙 あたしも散々そういつてただけじゃ。

高山 はい。

亜梨沙 お母さん大好きだったからなー、……ちゃんは。

高山 そういつ問題ですかこれ？

亜梨沙 しょうがないじゃん本人がそういつてんだから。じゃあ、どうしろっていうのあたしに？

高山 どう、まあ、……わかんなさるよ、

亜梨沙 なんか、……ちゅんは「戦い」って言うから。

高山 戦い？

亜梨沙 何と戦いのかはあたしはわかんないけど、多分、……ちゃんも死にたいは「戦い」じゃないかなって思ってた、……ね、……高田さん。……ちゃんも死にたいのよ、

高山 はい？

亜梨沙 たたとえばそれはそれで仕方ないって、あたしもそれを受け入れたとしたらさ、うーん……

高山 なんですか？

亜梨沙 何が出来るの？ あたしは……ちゃんに対して？

間。

高山 すみません。俺にはちょっと……。

亜梨沙 (笑) ね？ 困っちゃうよね。なんかごめん勝手なじゃって。

高山 いや、なんかごちそうさとお力になれず。

亜梨沙 ありがとうね。久しぶりにこうやって高山くんとお話出来て嬉しかったし。うん。

少しの間。

亜梨沙 もう大丈夫。この件はなんか、あとはあたしが、自分でなんとかするよ。

高山 すみません。

亜梨沙 謝らないですよ。なんも悪いことしてないじゃん？

高山 はい。

亜梨沙 お休みじゃあ。あたしはもう、寝ます。

高山 すみません。お休みなさい。

電話を切る高山。

その傍にはいつの間にかモモがいる。

モモ 終わった？

高山 あー、ごめんごめん。

モモ んーん。なんか今日ね、駅でいきなりなあ……。

モモが引き続き今日起きた出来事のことなどを話しながら、二人退場。  
場面転換。

### ◎アンカで死刑 その3

黒川、新美、栄太郎の場面。拷問がまだ続いている。

新美 720番、「おしい」です。

栄太郎 あちゃー。「おでこ」なんかやったらもうダメじゃん、終わらじやん。黒川さん「おでこ」だつてよ、ちひさねっ。

黒川、栄太郎の言葉に反応しない。

栄太郎 あれ？ 興味ないの？ 自分のことだよ？ あんたがどつ殺されていくかっつてっ重  
要問題に関心ないの？

黒川 多分、無理ですよ。君らにはちよっつ。

栄太郎 は？ 無理って何が無理なの？ 意味わかんねえ。は？

黒川 栄太郎くん、……だつたっけ？ 言っつてっやっつてっつてのが死んだのは別に、マキノ  
個人のせいじゃないからね？

栄太郎 そんなことわかってっるよ。

黒川 あ、そっ？

栄太郎 だからっつて、マキノには姉ちゃんとの個人的なつきあいつてもんがあつたわけだからさ、  
いくら「泳ぐ魚」の仕事だかなんだか知らねえけど殺すっつてっつのはおかしいだろっ。

黒川 まあ彼にも立場があつたわけだしや……。っ。

栄太郎 理屈を言っつてっじゃねえよー！

黒川 申し訳なかつたよ。すまなかつた。

栄太郎 なんで今度は急に謝っつてっるんだよ！ ……なんなんだよ。謝らなへっつてっつから、マキノ  
の居場所でも教えろよっ！

黒川 君、疲れる性格だねっつて言われるでしよ？

栄太郎 言われねーよ。<sup>めんど</sup>生憎だけどな、そんな友だちみたいなのは居ないからな、そもそも。

黒川 え、……じゃあこの人はなんなの？

栄太郎 雇われだよ、こいつは。今日初めて会つたんだ。

新美 雇われです。

黒川、二人の様子を見比へて、

黒川 あー、そうなんだ。ふーん。あー、友達居ないんだあ、そう……。

栄太郎 何納得してんだよっ！ てめえ、もう殺す、殺すからホントにっ！

黒川 いや、だからもうっつてっ？

栄太郎 はあ？ なんなんだよてめえ、意味わかんねえ。

黒川 意味わかんなくねーだろ全然。さつきからずつと「ビーぞ」っつて言っつてっじゃねえか。殺  
す殺す言っつてっ割にはおめえこそ何もできねえじゃねえか？

栄太郎 うるせえなっ！ 生意気なんだよてめえ、お前、自分の立場が、てめえ、おまえわかつ  
てんのかよ？

黒川 うるせえな。立場がわかつつてっえのはどっつちだよ？

栄太郎 ああ？

黒川 アンカは絶対だろ？ 徹しろよ。

新美、ドリルの電源を入れる。

その音が響き渡る中、場面転換。

◎中心はいつも夏空地帯

//////と亜梨沙の電話の場面となる。

このシーン、//////は複数存在している。

////// あ、もしもし亜梨ちゃん？ あたしあたし。//////です、てわかるかな？

亜梨沙 //////、ちゃん……？

////// ほら小学校ん時に一緒だったあの「なんでも過敏症」のとき、卒業式の時に来てくれたじゃ  
ん？

亜梨沙 あーあーあー、//////ちゃんか！

////// ありえないんだけど、何ちよっと「誰？」みたくなってんの、

亜梨沙 や、や、ごめんごめん、超、久しぶりだったから、うーわ、//////ちゃん元気にしてんの？

////// っしてない。

亜梨沙 え？

////// 全然元気にしてないよ。てか、//////ちゃん今、電話大丈夫？

亜梨沙 うん、まあ大丈夫だけど……。

////// や、あの、久しぶりでなんなんだけどさ、今日ちよっとアプリちゃんに相談しているか、そう  
してアプリがあって電話したんだけどあのね、

亜梨沙 うん、なに？

////// なんかあたしのお母さんが今ちよっと、命に関わる大問題みたいのが発生しちゃって、

亜梨沙 命に関わる大問題？

////// あたし、世界があたしを壊しに来るんなら、それより前にあたしが世界を壊してやりたい  
っして、ずっとそう思ってたんだけど、いつも全然方法がわからなくて、

亜梨沙 //////、ちゃんか？

////// あたしの戦わなきゃいけない相手は誰だっつ？

////// あたしの倒さなきゃいけない相手は？

////// 絶対あいつらぶっ殺してやる。

////// 世界があたしを壊しに来るなら、それより前にあたしが世界を壊してやるんだ！

////// あいつら全部皆殺してやる。

////// だけ。

////// あいつら全部皆殺してやる？

//////たち 誰？  
誰？

□々に「誰？ 誰？」といつて「あいつら」「あいつら」を探す//////たち。

//////たち だーれだ？  
//////たち あいつらーっー！  
//////たち わかんない。  
//////たち 結局、わかんない。あたしは結局、最後の最後までそれがわかんない。  
//////たち の、かもしれない。

//////たち この国では、いつでも決断を下す人間はどこかに隠されていて、何枚も何枚を皮を剥いていつて最後の一枚、いつに化けの皮をひっぺがしたぞっー！

//////全員 やったー！  
//////たち といつても、そこには、何もできない無力な空白が横たわっているだけ。

//////たち 空白。  
//////たち 空白。  
問。 //////たちが空を見上げる。

//////たち 「いわゆる植物状態」の陛下。  
//////たち 「いわゆる植物状態」のお母さん。

//////たち お母さんとお父さん、  
//////たち 無力な、横たわる、  
//////たち 空白。

//////たち プシユー。  
//////たち シュワシュワシュワ。  
//////たち プシユー。  
//////たち モヤモヤモヤモヤ。  
//////たち モモモモモ、ポーンっー！  
//////たち プシユー。

//////たち じわがじわの国の最高責任者？  
//////たち ドン！  
//////たち 撞つたじゃないの？  
//////たち じわなははははええいじゃあ？  
//////たち え、え、え、えっ？

//////たち じわ、  
//////たち じわ、  
//////たち じわ、



「…… テキに触りたい。あたしは、あたしの戦ってるテキに触った感覚が、一度も、無い。誰と戦えばいいのか、死ぬまでわからないなんて、そんなのは嫌。」

亜梨沙 「あたしがなんとかしてあげる、諦めちゃダメだよ。ね？」「……ちゃん、あたしがなんとかしてあげるから。」

「…… 私を殺しに来る奴に、死ぬまで触れることもできないなんて、そんな間抜けな役割はげんまり。」

「…… 4 だけごなんだかさうなりそう。」

「…… 3 だけごなんだか避けられない。」

亜梨沙 「絶対待っててね、……ちゃん！ あたしがなんとかしてあげるから！」

亜梨沙が絶叫すると、照明変化。

そこまでの流れを絶ち切って別の場所に司会、司会補佐、登場。

## ◎代読

欠席結婚式の場面に戻る。

司会、補佐、手には「ラブレター」を持っている。

補佐 「えー、……いじですわね、……さんが大変思い出に残っているところ、マキさんから……さんへの、ラブレターを読んでみたいと思います。」

司会 「(照れながら)あら？ いったいですかそんな？」

補佐 「ええ、もう。」

司会 「だって音読？ 音読なんかしてもいいんですかちょっと？」

補佐 「なんせ今日はお二人の晴れ舞台なんですから。じゃあほら、お願いします。」

司会 「はい。えー、……では……」

照明変化。深夜のパーティーのようなイメージ。

司会 「……さんの事は日々、とても大切に思っています。好きです。」

補佐 「おっほほ(笑)」

司会 「好きですけど、」

補佐 「けど？」

司会 「好きな人と付き合っていることはとても恐ろしいことだと思います。」

補佐 「ほっほっ？」

司会 「僕はきつと君よりは多くの人づきあいをしてきたし、「泳ぐ魚」のメンバーたちとは仕事の現場で長い付き合いがありました。もちろん、楽しいしおぼかりでは無かったけれど、それでも、僕にとってはやはりかけがえの無い大切な同僚たちで、出来ることなら……さんと一緒に昔に戻って、一人一人、紹介したいぐらいです。ホントにね、いろんな奴がいたんです。」



突然、大音量で音楽がかかる。陽気な歌謡曲である。例えば井上陽水の『夢の中へ』。以下、音楽の中でセリフ。ミミたちは自分の正面にいる「新郎」に向けて話す。

ミミたち キスしてー！

殺してー！

キスしてー！

殺してー！

キスして殺してキスしてねー！

マキノがミミの手を取る。

同様に整列した「泳ぐ魚」のメンバーたちもそれぞれ正面に居る「ミミ」の手を取る。

ミミたち さよなびー！

ミミ 〇 僕は、君が死んでいくことにも痛みを感じない。

ミミたち さよなびー！

ミミ 〇 僕は、僕が生きていることにも痛みを感じない。

ミミ さよなびー！

マキノ 人の痛みがわからないんだね、なんて言う回しがありますけど、わからないんです。僕には、そういうことが全然わからない。

ミミたち さよなびー！

マキノ 僕は……！

ミミたち さよなびー！

マキノがキスをすゑる。ミミはそれだけで絶頂に達して痙攣してしまふ。

痙攣がすゑる。ミミは感染し、ものすごい勢いで震える。ミミたち。

マキノは痙攣して震えてくる。ミミを支えてやっっているように見えるが、やがてそれは首を締めつけて殺してくるのだ。ミミはわかむかむか。

---

#### ◎アンカで死刑 その4

---

と、舞台上の別の場所でもうすぐまでの様子を見ていた黒川が発言する。

黒川 そういつ結婚式があってもいい……。あってもいいな。

ミミたちがすゑて息絶え、崩れ落ちのまじりたてその場に横たわる。

「泳ぐ魚」のメンバー達は去り、マキノが一人、倒れたミミの前で立ち戻ります。

やがてミミの痙攣がマキノにも伝染してこへ。

この時点で「欠席結婚式」が終了する。

欠席結婚式の参加者がすべて退場し、生きといるマキノと亜梨沙、そしてミミたちのくしゃみの遺骸が舞台上に残される。

痙攣が治まったマキノは「なごでも過敏症」「罹患してごらぬ。

マキノはその症状に苦しみながら、舞台後方へと這ひよつと移動してごらぬ。

◎罹患

マキノが一人で舞台奥に座っている。

それとは別の場所に、丸山、尾関、菅野、宮下が登場。

場面、「泳ぐ魚」の職場となる。

丸山 ……「なんでも過敏症」？ ってなんですか？

尾関 俺もあんまりよくわかんねえんだけどさ、なんかマキノがそれになったらしいよ。

丸山 ふーん、そうなんすかあ。大変すね。

尾関 だからなんか、使い物にならないからっていつて、……な？

菅野 うん。

丸山 ふーん。そうなんすかあ。大変すね。

菅野 ……心が無い。

宮下を残し、丸山、尾関、菅野が退場。

宮下が立ち止まり、舞台奥のマキノの方を向く。  
間。

いつしか舞台上には雪が降りはじめた。

宮下、退場。

場面転換。

◎亜梨沙からの質問 その4

雪の中、高山、父、大杉が別々の場所に登場する。

高山 しんしんと大雪が降り始めたあの日に政変が起きて、「泳ぐ魚」は完全にその権力を失った。テレビでもネットでもバンバン暴動の映像なんかが流れていて、沢山の死体とか、人が人に殺されていく映像とかを見ることになって、

父 それでも俺は、全然、現実感がわかなくって、「こわって本当にいま日本で起きていることなのかよ？」っていつ思いで、最初の何日かは一生懸命テレビばかりを見ていた。

高山 だけどもある時、我慢できなくなっって、びっつとそいつの全部、見るのをやめた。

大杉 何日も何日も雪が降り続いて、関東地方は観測史上最大という記録的な豪雪に見舞われ、そして、首都圏の交通機関は、ほとんど完全に麻痺してしまっった。

雪が降り続く。

と、舞台上に残っていた亜梨沙が動き出す。



そんなのは簡単だ。  
ただ、それをつなぐ。  
さあ、ジャンプをして。  
足を踏み鳴らすんだ。  
さあ、ジャンプをして。  
手を大きく振って。  
一個づつ、一個づつ。  
一歩づつ、一歩づつ。  
確かに。  
大きな。  
波に乗る。  
確かに。  
大きな。  
波に乗る。

いっしょに波の音が聞こえ始めてくる。

舞台上、別の場所に司会と司会補佐が登場。

司会 月と海とがケンカをしている。

補佐 仲裁に入ろう。

司会 その隙間でジャンプをして、

補佐 こっさり足を踏み鳴らすぞ。

司会 月と海とがケンカをしている。

補佐 仲裁に入ろう。

間。

司会 さあ、ジャンプをして！

うつむいていたマキノがふと視線を上げると雪の中、行き交う人々の姿が見える。

通り過ぎる人々が大きくなるなりとなつてマキノをも巻き込み、やがて、過ぎ去っていく。

すべての俳優が舞台上からいなくなる。

幕